

JAHIS

会誌

2026.8

77 号



目次

巻頭言	会長	鈴木 正範	2
	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 役員のご紹介		4
特集／トピックス	2026年 第16期定時社員総会&懇親会の開催報告		6
	事業推進部 ホスピタルショウ委員会報告		9
	副会長	桑原 裕哉	12
	理事	高橋 徹	14
新任役員のご紹介	理事	宮川 力	15
	監事	児玉 達弘	16
	監事	山本 拓真	17
	運営会議議長	佐藤 慶彦	18
新部会長の ご挨拶・抱負	総務会長	榎本 康之	19
	医療システム部会 部会長	岡田 靖士	21
	保健福祉システム部会 部会長	荻野 康晴	23
	医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート改版	笠置 大樹	24
部会から	令和8年度診療報酬改定(歯科)の振り返り	佐藤 孝昭	26
	JAHIS/JIRA合同リモートサービスセキュリティ作成WG	松本 義和	30
	地域連携ネットワークの最新動向 ～現状の論点と今後の在り方～	光城 元博	33
2025年度 表彰受賞者の紹介			38
運営状況報告	運営会議状況報告		54
	対外活動に関する派遣、講演、寄稿等		60
新規会員紹介	キヤノン株式会社／ITF合同会社／ベストスキップ株式会社／ トレンサーテクノロジーソリューション／株式会社ファティマ／ 中央コンピューターサービス株式会社		65
事務局スタッフ紹介	事業企画推進室 副室長	茗原 秀幸	70
編集後記			72

ご挨拶

会長

すずき まさのり

鈴木 正範

(株)NTTデータ

代表取締役社長 CEO



このたび、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）会長を務めさせていただくこととなりました鈴木正範でございます。JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

JAHISは、1994年の設立以来、約30年にわたり、医療情報システムの標準化を中核として、政策提言や関係機関との連携を通じ、我が国の医療・介護・福祉分野における情報化を支えてきました。電子カルテ、検査、処方、放射線等に関する各種標準やガイドラインの整備は、医療現場の効率化と安全性向上に寄与するとともに、現在進められている医療DXの基盤となっています。

我が国の医療は、少子高齢化の急速な進行、医療人材の不足、地域医療の持続性といった深刻な構造的課題に直面しています。医療提供体制の維持と質の向上を両立させることは、国民生活を支える上で喫緊の課題となっており、その解決に向けて、国は、「医療DX令和ビジョン2030」を重要政策として位置づけています。

全国医療情報プラットフォームの整備、電子カルテ情報の標準化・共有、電子処方箋の普及、PHRの利活用、診療報酬改定DXなど、制度とデジタル技術を一体で進める取り組みは、本格的な実装段階に入っています。さらに、画像診断支援、診療支援、業務効率化、医療データ分析など、AI（人工知能）の医療分野への適用も進展しています。AIを医療DXに活かすためには、高品質なデータの確保、標準化、相互運用性に加え、説明可能性やガバナンスの整備が不可欠です。

JAHISは2030ビジョンにおいて、「健康で安心して暮らせるデータ循環型社会の実現」を掲げています。これまで培ってきた実績を礎に、標準化を軸としてAIを含む先端技術を適切に取り込み、産業界の知見を結集しながら、医療DXを持続可能な形で社会に定着させ、次代の医療を支える情報基盤の構築に貢献していきます。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 役員のご紹介

2026年6月9日の第16期定時社員総会および臨時理事会で新たに就任、再任されました役員の皆様をご紹介します。

会 長 鈴木 正範

(株)NTTデータ
代表取締役社長 CEO



副 会 長 高橋 秀明

ウィーメックス(株)
代表取締役社長



副 会 長 浅見 英徳

日本電気(株)
医療システム開発統括部長



副 会 長 先崎 心智

日本アイ・ビー・エム(株)
理事
ヘルスケア&ライフサイエンス事業部長



副 会 長 桑原 裕哉

富士通Japan(株)
ヘルスケア事業本部長



副 会 長 成行 書史

富士フイルム(株)
メディカルシステム事業部
技術戦略統括マネージャー



理 事 國光 宏昌

(株)EMシステムズ
代表取締役社長執行役員



理 事 高橋 徹

キヤノン(株)
メディカル事業本部
画像診断システム事業部 画像診断システム第三事業センター 上席



理 事 竹村 幸治

コニカミノルタ(株)
ヘルスケア事業本部 開発統括部長



理 事 田中 啓一

日本事務器(株)
代表取締役社長 CEO



理 事 宮川 力

(株)ファインデックス
取締役



監 事 児玉 達弘

オリンパスメディカルシステムズ(株)
ヴァイス プレジデント



監 事 山本 拓真

(株)カナミックネットワーク
代表取締役社長



副会長、理事、監事の順序は会社名の50音順による。

2026年 第16期定時社員総会& 懇親会の開催報告

事務局 総務部長

てらさき たかひろ

寺崎 貴宏



定時社員総会

6月9日（火）16時00分より東京大手町の経団連会館4階ダイヤモンドルームにおいて、第16期定時社員総会を開催しました。

当日は会員374社中257社（委任状含む）の参加を得て、議長の長堀 泉会長（富士通Japan(株)取締役会長）による進行で議案を審議しました。

会場にて参加された会員代表者と代理人及び委任状による議決権行使分の合計により社員総会開催要件が満たされ、すべての議案が審議の結果、承認可決されました。

今回から総会の進行は、前面の大型スクリーンに議案を投影する形で行いましたが、大きな混乱もなく無事に終了いたしました。



議長 長堀 泉 JAHIS会長



司会 岩津 聖二 運営会議議長

当社員総会で審議された議案は以下のとおりです。

第1号議案	2025年度事業報告の件
第2号議案	2025年度計算書類承認及び監事監査結果報告の件
第3号議案	2026年度事業計画承認の件
第4号議案	2026年度収支予算承認の件
第5号議案	役員選任・補欠役員選任の件

また、2025年度に委員会あるいはプロジェクト等において、非常に貢献のあった方、そして幹部として長年JAHISを支えていただいた方もお招きして表彰式を行いました。

- ・奨励賞（個人）：5名
- ・功績賞（個人）：4名
- ・功績賞（連名）：4組11名
- ・功績賞（グループ）：2グループ11名
- ・幹部功労：3名

の合計34名が受賞されました（詳細は、「2025年度表彰受賞者の紹介」をご覧ください）。



総会の様子①



総会の様子②

臨時理事会

社員総会終了後に臨時理事会を開催し、以下のとおり会長、副会長が選定されました。

会 長	鈴木 正範	(株)NTTデータ 代表取締役社長 CEO
副会長	高橋 秀明	ウィーメックス(株) 代表取締役社長
副会長	浅見 英徳	日本電気(株) 医療システム開発統括部長
副会長	先崎 心智	日本アイ・ビー・エム(株) 理事 ヘルスケア＆ライフサイエンス事業部長
副会長	桑原 裕哉	富士通Japan(株) ヘルスケア事業本部長
副会長	成行 書史	富士フイルム(株) メディカルシステム事業部 技術戦略統括マネージャー

懇親会

社員総会後の懇親会としては、初めての夕方開催となる17時30分から、事業企画推進室長 小林 俊夫の司会により、以下のプログラムで懇親会を執り行いました。

来賓26名を含めて160名超の方々にご参加いただきました。

会長挨拶	
JAHIS新会長	鈴木 正範
来賓ご挨拶	
経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長	福田 光紀様
デジタル庁 国民向けサービスグループ 審議官	上仮屋 尚様
(一財)医療情報システム開発センター理事長	山本 隆一様
中締め	
JAHIS運営会議 新議長	佐藤 慶彦



鈴木 正範
JAHIS新会長



小林 俊夫
事業企画推進室長



経済産業省 商務・サービスグループ
ヘルスケア産業課長
福田 光紀様



デジタル庁 国民向けサービスグループ
審議官
上仮屋 尚様



(一財)医療情報システム開発センター理事長
山本 隆一様



佐藤 慶彦
JAHIS運営会議
新議長



会場の様子①



会場の様子②

お知らせ

「2027年新春講演会&賀詞交換会」は、2027年1月20日（水）16:00からイノカンファレンスセンターで開催いたします。

事業推進部

ホスピタルショウ委員会報告

国際モダンホスピタルショウ2026の開催

国際モダンホスピタルショウ2026は、一般社団法人日本病院会、および一般社団法人日本経営協会（NOMA）主催のもと東京ビッグサイトにて開催され、日本病院会会長である相澤孝夫氏によるオープニングセッションを皮切りにスタートいたしました。

今年のホスピタルショウへの展示状況としては、JAHIS会員も含め208ブースと昨年よりも多くの出展がありました。また同時開催として「ナースまつり」も企画展示されており、より一層盛大なものとなりました。連日の晴天により暑い日が続いたにもかかわらず、来場者数も前年並みの多数の来場者がありました。

テーマ 「共創が拓く 健康・医療・福祉の未来 ～人とテクノロジーが築く安心社会～」

開催期間/場所	2026年7月8日（水）～10日（金） 於 東京ビッグサイト西展示棟
出展者数	254社（共同出展者含む、総ブース数：208ブース）
来場者数	3日間合計 35,316名（2025年：35,645名）
オンライン開催	2026年6月1日（月）～7月31日（金）



国際モダンホスピタルショウ2026看板



開会セレモニー

JAHIS会員出展状況：出展数54社

会員様の出展状況といたしましては、昨年よりも若干ではありますが増加傾向で54社の出展となりました。各会員様の展示ブースにおきましては、様々な工夫を凝らし来場者へ積極的なPR展開をされていました。

出展社一覧（50音順）

(株)アイ・オー・データ	中部テレコミュニケーション(株)
(株)アイセルネットワークス	(株)テクノメディカ
アイテック阪急阪神(株)	(株)ディー・ディー・エス
アライドテレシス(株)	(株)電算
アレイ(株)	東亜システム(株)
インターシステムズジャパン(株)	トーテックアメニティ(株)
(株)インテック	(株)ナイス
インフォコム(株)	ニッセイ情報テクノロジー(株)
(株)医用工学研究所	日本光電工業(株)
(株)石川コンピュータ・センター	日本事務器(株)
(株)エーアイエス	日本電気(株)
(株)エクセル・クリエイツ	PSP(株)
(株)SBS情報システム	(株)ファインデックス
(株)エヌデーデー	(株)FIXER
沖電気工業(株)	富士フィルムメディカル(株)
Omi Japan(株)	富士フィルムメディカルITソリューションズ(株)
亀田医療情報(株)	富士通Japan(株)
キヤノンITSメディカル(株)	(株)ヘンリー
グローリー(株)	マルマンコンピュータサービス(株)
(株)ケアコム	メディカルインフォマティクス(株)
(株)コア・クリエイトシステム	(株)メディカルフロント
コニカミノルタ(株)	(株)メディサージュ
小林クリエイト(株)	(株)メドレー
サトーヘルスケア(株)	(株)USEN-ALMEX
JBCC(株)	(株)両備システムズ
(株)ジェイマックスシステム	(株)レスコ
タック(株)	(株)WorkVision

JAHISブース出展対応

JAHISブース出展にあたり、今年も『データ循環型社会の実現に向けて 医療DX推進を担う』をキャッチコピーとしてかけ、出展検討会メンバーからの多大な協力を受け、タペストリー、パネル、配布資料などの準備を行い出展いたしました。

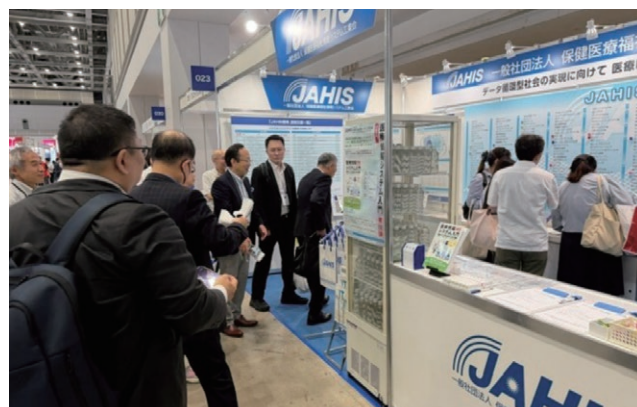
今年刷新し第8版となった「医療情報システム入門」のお披露目を行うとともに、「2030ビジョン」の動画についてもモニター投影し、会員様をはじめ多くの方に訪問していただきました。

ブース内に設けた会員一覧へ花型シールを貼っていただくイベントは、毎年意識していただける会員様も多く、お蔭様で86社にのぼり、多くの会員様とコミュニケーションを取らせていただきました。

ノベルティに関しましては、例年の暑さを意識しJAHISのロゴマークを付けた扇子と冷たいミネラルウォーターを準備し、各種資料と併せて来場者へ配布させていただき、会員様との活動のPRを行いました。



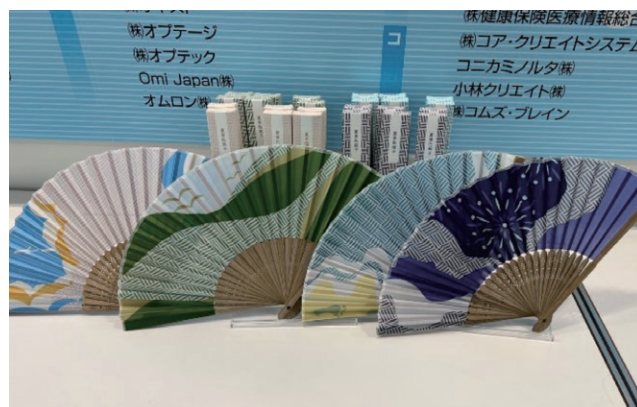
JAHISブース



JAHISブースへのお客様



書籍紹介



ノベルティの扇子

最後に

JAHISとしてのホスピタルショウに向けた企画・出展活動は、更に多くの方々にご認識、ご理解をいただける場であり、訴求活動を継続するための重要な取り組みであることと認識しています。引き続きJAHIS活動の認知度向上、プレゼンス向上に向けて尽力して参ります。

来年度は2027年7月14～16日の3日間にて、同じく東京ビッグサイトでの開催が予定されております。引き続きJAHISとしても出展を継続し、「データ循環型社会の実現に向けて」取り組んで参りますので、会員皆様のご理解、ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

ご挨拶

副会長

くわはら ひろ や
桑原 裕哉

富士通Japan(株)
ヘルスケア事業本部長



この度、副会長に就任いたしました桑原でございます。

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちを取り巻く保健医療福祉分野の環境は、中期計画2029にも示されているとおり、大きな変革期を迎えております。少子高齢化の進展、人材不足、地域医療における格差の拡大、増え続ける医療費への対応など、多くの社会課題に直面している状況です。

こうした中、2023年6月に公表された「医療DXの推進に関する工程表」に基づき、さまざまな施策が着実に進められております。本年は、まさに「医療DXの実装フェーズ」とも言える重要な年であり、「全国医療情報プラットフォーム」「標準型電子カルテ」「診療報酬改定DX」といった国の大型施策が、さらに本格化していくものと考えております。

また、Claude Mythosに代表されるフロンティアAIの台頭は、サイバーセキュリティ上の新たな課題をもたらす一方で、私たちに大きな変革をもたらす新たな価値創出の原動力でもあります。さらに、「経済財政運営と改革の基本方針2026（骨太方針2026）」には、AX（AIトランスフォーメーション）が初めて明記され、AIの社会実装を通じて産業全体の生産性向上と競争力強化を推進する方針が示されました。ヘルスケア分野においても、生成AIのみならずフィジカルAIの活用が進み、医療・介護現場における業務変革や新たな価値創出に向けた取り組みが一層加速していくものと考えております。

このように、保健医療福祉情報システムを取り巻く技術や環境が急速に進化する今、JAHISが果たすべき役割はますます重要になっています。JAHISは、業界を代表する団体として、行政や関係機関との連携を深めながら、標準化の推進や新たな技術活用に向けた環境整備に取り組み、保健医療福祉分野の発展に貢献していかなければなりません。

また、JAHISが掲げる「2030ビジョン」の理念である「データ循環型社会の実現」に向け、保健医療福祉分野におけるデータの蓄積・循環・利活用を促進し、その成果を国民の皆様が実感できる社会の実現を目指していくことが、私たちに課せられた重要な使命であると改めて認識しております。

私は、2024年6月までの3年間、医療システム部会長を務めさせていただきました。理事として2年ぶりのJAHIS復帰となりますが、これまで培ってきた経験を活かし、会員の皆様とともにJAHISのさらなる発展と「2030ビジョン」の実現に向けて尽力してまいり所存です。

会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

理事

たかはし とおる

高橋 徹

キヤノン(株)

メディカル事業本部

画像診断システム事業部 画像診断システム第三事業センター 上席



一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、理事を拝命いたしましたキヤノンの高橋徹でございます。就任にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

わが国では、高齢化の進展と人口減少が同時に進む中、医療・介護人材の不足や在宅医療需要の増大を踏まえ、限られた供給能力の下で質の高い医療・介護提供体制を持続可能な形で確保することが喫緊の課題となっており、保健・医療・福祉等のヘルスケア分野におけるデータの利活用を一段と進めることが不可欠であります。一方、国民皆保険制度のもとで質の高い医療が提供されているにもかかわらず、法制度やガバナンス、推進体制、データ連携基盤の整備等が不十分であるため、ヘルスケアデータの利活用が十分に進んでいません。特に、診療等の一次利用と研究開発等の二次利用が制度的・技術的に分断されていることが、医療DXを通じたイノベーションの加速を妨げるとともに、現場における非効率の一因となっています。

こうした中、わが国でもヘルスケアデータの連携・利活用に関する共通ルール整備を進めるべく、本人同意を中心とした入口規制から、利活用目的や禁止事項の明確化、セキュアなデータ連携・解析環境の構築、ならびに適切な審査・監督を一体的に講じる出口規制を重視した制度設計へと転換する動きが具体化しています。また、ヘルスケアデータの利活用を促進する法制度のあり方に関する検討も進められております。

このような取り組みは、JAHISが掲げる「2030ビジョン」まさにそのものであります。JAHISは、健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指し、「データ循環型社会の実現」をコンセプトに活動を展開しています。これは、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環・利活用することで、データ提供者である国民がその恩恵を享受できる社会の構築を目指すものです。

キヤノンのメディカルグループでは、患者、医療従事者とともに歩むという思いを「Made for Life」という事業スローガンに表し、医療・健康・福祉の広い分野で人々の健やかな生活の実現のために、豊かな価値を創造しお客様に提供してきております。私自身も入社以来、患者様とご家族が笑顔になるように、という思いで取り組んでまいりました。JAHISが目指す「データ循環型社会の実現」におきましても、生活者目線を忘れずに、出口規制を重視した制度設計に向けた標準化を推進しつつ、産官学で連携し、データが最大限活用される社会の実現を目指して参りたいと思います。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

理事

みやかわ りき

宮川 力

(株)ファインデックス

取締役



このたび、理事に就任いたしました宮川でございます。会員の皆様、ならびに関係各位におかれましては、平素より当会の運営と活動に格別のご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

新卒で社会人となって以来、前職時代を含めて一貫して医療システムの分野に身を置き、長きにわたり電子カルテをはじめとする病院情報システムの開発・導入に携わってまいりました。JAHISとのお付き合いも20年近くになります。この間、一人の技術者として活動に参加し、前職時代には注射データ交換規約や電子処方箋実装ガイドの作成に携わり、現在も次世代データ交換技術WG、シングルサインオンWG、HPKI電子署名規格作成WGなどに所属しております。JAHISの活動を通じて何より得がたいと感じてきたのは、会社の垣根を越えて、ベンダーの技術者同士が忌憚のない意見を交わせる場があるということです。日頃は市場で競い合う各社の技術者が、医療情報という共通の課題を前に率直に議論し、知恵を持ち寄る。この協調の文化こそがJAHISの財産であり、医療および介護の情報標準を支えてきた原動力であると実感しております。

さて、医療情報システムを取り巻く環境は、いま大きな転換点を迎えています。電子カルテ情報共有サービスの全国的な運用が始まり、電子カルテの普及に関する目標も法律に明記されるなど、HL7 FHIRをはじめとする標準化によって医療情報が施設の壁を越えて「つながる」時代が、いよいよ現実のものとなりつつあります。情報がつながることで蓄積されるデータは、二次利用やAIの活用を通じて、医療の質の向上や研究開発に資する我が国の貴重な資源となります。そして、つながり、集まるからこそ、認証・署名の基盤やサイバーセキュリティをはじめとする安全管理は、私ども産業界が果たすべき責任の根幹となります。「つなぐ」「活かす」「守る」——この三つを一体のものとして推進していくことこそ、JAHISに求められる役割であり、当会が掲げる『データ循環型社会の実現』にも通じるものと認識しております。

理事としては、制度と現場の間に立つ工業会だからこそできる、実装者の視点に立った標準化と、会員各社の技術者が存分に力を発揮できる交流の場づくりに、微力ながら貢献する所存です。

結びにあたり、会員の皆様の一層のご支援とご参画をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝と、我が国の保健医療福祉のさらなる発展を心より祈念いたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

監事

こだま たつひろ
児玉 達弘

オリンパスメディカルシステムズ(株)

アプリケーション ソフトウェア デベロップメント ヴァイスプレジデント



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび監事を拝命いたしましたオリンパスメディカルシステムズの児玉達弘でございます。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

現在、日本の医療を取り巻く環境は大きな変革期を迎えています。少子高齢化や医療従事者不足への対応、地域医療の維持、医療費の適正化など多くの社会課題が存在する中、医療DXはその解決に向けた重要な取り組みとして期待されています。全国医療情報プラットフォームの整備や電子カルテ情報の標準化が進められていますが、その実現には医療情報の標準化と相互運用性の確保が不可欠であり、JAHISが長年推進してきた活動の重要性はますます高まっていると考えております。

オリンパスは、グローバルなメドテックカンパニーとして、内視鏡をはじめとする医療機器や医療情報ソリューションの提供を通じて医療の発展に貢献してまいりました。近年では、ソフトウェアやAIを活用したデジタルソリューションの開発にも注力し、医療現場で生み出されるデータの利活用を通じて、医療従事者の業務効率化や医療の質向上を支援しています。

医療DXの本質は、単なるデジタル化ではなく、患者さん、医療従事者、そして社会全体に新たな価値を創出することにあると考えています。その原点は「患者さん第一」にあります。患者さんがより安心して質の高い医療を受けられる社会の実現に向けて、必要な情報を必要な時に安全かつ円滑に活用できる環境を整備することが重要です。

また、データ活用、標準化、サイバーセキュリティは世界共通の課題です。JAHISは国内における標準化の推進役であるとともに、国際標準との接点を持ち、日本と世界をつなぐ重要な役割を担っています。日本の医療現場の知見を国際的な議論につなげるとともに、世界の先進的な取り組みを国内へ還元する架け橋として、その存在意義は今後さらに高まるものと考えております。

監事として、会員の皆様から託された貴重な資源が適正かつ効果的に活用されるよう、公正で透明性の高い運営の確保に努めるとともに、JAHISの健全な発展に貢献してまいります。

今後とも、皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

監事

やまもと たくま

山本 拓真

(株)カナミックネットワーク

代表取締役社長



この度、2026年度からの2年間、一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）の監事を拝命いたしました、株式会社カナミックネットワークの山本拓真でございます。JAHIS会員の皆様、そして日々日本の保健医療福祉を支えていらっしゃるすべての関係者の皆様に、心より御礼と敬意を申し上げます。

現在、我が国は世界に類を見ないスピードで超高齢社会を突き進んでいます。内閣府の「高齢社会白書」によると、2024年にはすでに高齢化率が29.3%に達しており、今後もその割合は増加の一途を辿ると予測されています。さらに、生産年齢人口の急激な減少に伴い、2040年には医療・福祉分野で約96万人の就業者数が不足するという深刻な課題が報告されています。増大し続ける社会保障費の抑制と、深刻化する現場の人手不足への対応は、もはや一刻の猶予もない喫緊の課題です。

こうした歴史的な転換期において、情報技術、特に「医療・介護・障害」の各領域を跨ぐ情報システムの果たす役割は極めて重要です。これまで、医療や介護の現場では、それぞれのシステムが独立して構築される「情報のサイロ化」が大きな課題となっていました。しかし、これからの時代に求められるのは、患者や利用者が地域で自分らしく暮らし続けられる「地域包括ケアシステム」の実現です。そのためには、医療、介護、そして障害福祉の各現場を有機的に繋ぐ「多職種連携システム」の構築が不可欠です。

カナミックネットワークは、創業以来、クラウド技術を活用した医療・介護・障がい分野の多職種連携プラットフォームの提供を通じて、地域包括ケアの実現に邁進してまいりました。現場のスタッフがリアルタイムで情報を共有し、手を取り合って一人の利用者を支える環境を作ることこそが、業務の効率化を推進し、「より少ない人手でも回る持続可能な現場」を構築する鍵であると確信しています。

JAHISが掲げる「2030ビジョン」のコンセプトである「データ循環型社会の実現」は、まさにこうした現場のデータが蓄積・循環し、利活用されることで、最終的に国民一人ひとりがその恩恵を享受できる社会を目指すものであり、私たちのビジョンとも完全に合致しています。国が責任を持って主導する「医療DX」の動きとも足並みを揃え、標準化された技術基盤のもとで会員企業が創意工夫を競い合える環境を支援していくことが、JAHISの重要な使命です。

この度、JAHISの監事という重責を担うにあたり、私は会員企業の皆様が頂戴している大切な会費を財源とする工業会活動が、適切な資産管理のもと、公正かつ効率的な予算執行をもって運営されるよう、厳正に監査の職責を果たしてまいります。同時に、一ベンダー企業の経営者としての知見を活かし、政府の推進する医療DXのスピードと、現場の医療機関や会員企業の現実的な対応能力とのバランスにも配慮し、誰も置き去りにされない「全体最適」の視点から、JAHISの健全な組織運営と日本の保健医療福祉の発展に尽力する所存です。

会員の皆様の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

運営会議議長

さとう よしひこ
佐藤 慶彦

(株)NTTデータ



このたび、運営会議議長を拝命いたしましたNTTデータの佐藤慶彦です。会員の皆様には平素よりJAHISの事業運営にご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国の医療現場は、少子高齢化の急速な進行に伴う医療需要の増大、医療従事者の不足や地域偏在、さらには業務負荷の増大など、複合的かつ構造的な課題に直面しています。これらの課題に対応し、限られた資源の中で安全で質の高い医療を持続的に提供していくことは、国民生活を支える上で極めて重要なテーマとなっています。

こうした背景を踏まえ、国は『医療DX令和ビジョン2030』を掲げ、全国医療情報プラットフォームの整備、電子カルテ情報の標準化・共有、電子処方箋の普及、診療報酬改定DXなどを、制度とデジタル技術の両面から一体的に推進しています。

医療DXはいま、構想や制度設計の段階から、医療現場での本格的な実装・運用へと移行しつつあり、政策動向や標準への対応を含めた実行力が、これまで以上に問われる局面に入っています。

JAHISは、設立以来約30年にわたり、医療情報システムの標準化と相互運用性の確保を中核として、産業界の立場から政策提言や関係機関との連携を通じ、我が国の医療DXを下支えしてきました。標準やガイドラインの整備は、医療IT企業にとっての技術的基盤であると同時に、医療現場や行政と共通の前提のもとで連携を進めるための重要な社会的基盤でもあります。

医療DXが社会実装の段階へと進む中においては、標準やルールを『決まった後に理解し対応する』だけでなく、『検討・形成の段階から関与する』ことの重要性が増しています。JAHISは、行政、医療現場、産業界をつなぐハブとして、制度動向や標準化の議論を共有し、関係者が立場を超えて建設的な議論を行う場を提供してきました。こうした場への参画は、各企業が自社の技術やサービスを将来の医療DXの方向性と整合させ、持続的な事業展開につなげていく上でも大きな意義を持つものと考えています。

運営会議は、JAHISの多様な委員会・部会活動を横断的に支え、組織全体としての方向性や優先順位を整理し、実効性ある事業運営を推進する役割を担っています。運営会議議長として、医療現場の実情と国の医療DX施策の動向を的確に捉えながら、会員各社の知見を結集し、標準化を軸とした取り組みが社会に着実に実装されていくよう尽力してまいります。

引き続き、JAHISの活動へのご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

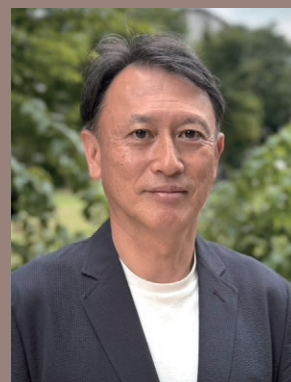
ご挨拶

総務会長

えのもと やすゆき

榎本 康之

(日本アイ・ビー・エム(株))



会員の皆様におかれましては、平素よりJAHIS活動に格別のご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、保健医療福祉情報システム工業会 総務会の会長を拝命するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

令和8年となり、医療・ヘルスケア分野におけるデジタル化の進展は新たな局面を迎えています。医療DXや標準化、データ利活用を推進する国の取り組みも加速しており、私たちJAHISに求められる役割と期待は一段と高まっています。

社会の変化が急速に進む中で、会員の皆様が活動しやすく、また業界に貢献できる基盤を維持・強化していくことは、総務会として重要な責務であると認識しています。

これまでの数年間は感染症の影響により、活動スタイルが大きく制約されてきました。しかし現在は、対面とオンラインを組み合わせたコミュニケーション環境が定着しつつあります。リアルな交流の価値を改めて認識しながら、時代に即した効率的な運営体制を整備していくことが求められています。総務会としても、会員の皆様が参加しやすく、実りある場を提供できるよう努めてまいります。

また、本会では女性会員の活躍促進や多様性向上の取り組み、さらには新規会員獲得や情報アクセス性向上を目的としたHP改善など、前任者の下で始まった活動が着実に進展しています。これらの取り組みをさらに発展させ、会員の皆様一人ひとりにとって価値ある組織であり続けられるよう努めてまいります。

本年度の総務会では、以下の三点を柱として事業を進めてまいります。

(1) 会員に関する事項

永続的な運営基盤を確立するため、新規会員の増加と退会抑制に向けた施策を進めるとともに、現行サービスの課題を整理し、必要な改善を行います。

(2) 組織運営に関する事項

JAHISのステータス向上と適切な情報発信を推進するとともに、内部プロセス改革およびITシステム整備を進め、効率的かつ透明性の高い組織運営を目指します。

(3) 法人としての事項

一般社団法人としての規則・規程類を随時見直し、透明性・公平性の確保に努め、社会からの信頼向上につなげてまいります。

特に今年度注力する施策について以下に紹介いたします。

まず、「会員に関する事項」においては、昨年度までに実施した3つのタスクフォース

- a. 女性活躍
- b. 会員意識調査
- c. HP改善検討

の活動成果を踏まえ、ブランドイメージ向上と会員勧誘活動の強化を図ります。特にHPは約10年ぶりにリニューアルし、新規会員獲得につながるよう情報発信を強化してまいります。

次に、「組織運営に関する事項」では、情報システム検討委員会（委員長：事務局長、委員：各部門運営幹事ほか）と連携し、JAHIS情報システムの見直しに向けた計画を策定し、今年度の実施項目を確実に遂行します。また、会員の皆様の利便性向上につながる電子化も促進してまいります。

これらの活動を通じ、総務会として今後も会員の皆様に広くJAHISの価値を提供できるよう取り組んでまいります。

急速に変化する令和8年の環境においても、JAHISが医療・福祉情報システムの発展に寄与し続けられるよう、誠心誠意努めてまいります。

会員の皆様におかれましては、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

医療システム部会 部会長

おかだ やすし
岡田 靖士

(日本電気㈱)



このたび、2026年6月より医療システム部会の部会長を拝命いたしました岡田靖士と申します。私はこの4年間、電子カルテ委員会の委員長を務め、医療情報の標準化の最前線に携わってまいりました。その経験を礎に、部会長としての重責に身の引き締まる思いです。

近年、医療および健康分野におけるデジタル化は加速の一途をたどっています。2025年12月には医療法等の改正が成立し、全国医療情報プラットフォームの創設・電子カルテ情報の標準化・診療報酬改定DXを三本の柱とする医療DXの推進が法的に裏付けられるとともに、電子カルテの全医療機関への普及（2030年末）が法定目標として定められました。2026年7月閣議決定の「骨太の方針2026」では、新たに「医療情報化推進方針」を策定し、電子カルテ・電子処方箋の普及と情報連携を進める方針が示されました。

その一方で、医療機関を狙うサイバー攻撃は深刻さを増し、医療情報システムの安全確保は待ったなしの課題です。安全管理ガイドラインの改定や対策の義務化が進むなか、医療の安全と信頼を支える基盤づくりにおいて、私どもに期待される役割も、ますます重みを増しています。加えて、生成AIをはじめとする新たな技術を医療現場へどう実装し、その安全な運用をいかに支えていくかも、私どもが向き合うべき重要なテーマです。

骨太の方針には「医療等データの一次利用及び二次利用の一体的制度設計」が明記され、内閣府を中心に法的枠組みの整備が本格化するなど、国を挙げてデータの利活用が推し進められています。JAHISが掲げる「2030ビジョン」——健康・医療・介護のデータが安全に循環し、その恩恵が国民一人ひとりに還元される「データ循環型社会」の実現——は、まさにこの潮流の中核に位置するものであり、この歩みのなかで当部会が果たせることも、決して小さくはないと考えています。

医療システム部会は、電子カルテ委員会、部門システム委員会、セキュリティ委員会、相互運用性委員会の4つの委員会を中心に活動しております。なかでも電子カルテ委員会での活動を通じて、私が強く実感してきたことがあります。医療情報システムをつなぐ仕組みは、国・医療機関・アカデミア、そして私どもベンダーの、いずれか一者だけで成し遂げられるものではありません。制度を動かす国、現場の切実な知見を持つ医療機関、確かな理論に立つアカデミア、そして技術を形にする私どもベンダー——その一つが欠けても、医療の現場に届く仕組みは立ち上がりません。それぞれの立場から現場の知識と意見を持ち寄り、議論を重ね、協働して積み上げていくこと、そして技術仕様を定めるだけでなく、それが現場に根づくまでを見据えること。

その積み重ねの先にこそ、実効性のある仕組みが生まれ、医療DXが前進すると確信しております。

部会長として、私はこの協働の輪を一層広げることには力を尽くす所存です。電子カルテ情報の標準化と普及・相互運用性の確保をはじめ、各委員会の取り組みをさらに前へ進めるべく、行政・関連団体・他部会、そして会員の皆様との連携を深めながら、丁寧かつ着実に運営してまいります。

医療システム部会の活動に、引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ご挨拶

保健福祉システム部会 部会長

おぎの やすはる
荻野 康晴

(富士通Japan㈱)



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より保健福祉システム部会の活動にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、保健福祉システム部会長を拝命いたしました荻野康晴と申します。着任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

我が国においては、少子高齢化の進展と生産年齢人口の減少が加速し、社会保障制度の持続性確保と国民のQOL向上の両立がかつてなく重要な課題となっております。

こうした中、医療DXの推進やデータヘルス改革、PHRの活用など、データに基づく政策・サービスへの転換が急速に進展しており、健康・医療・介護・福祉分野におけるデータ利活用の重要性は一層高まっています。

さらに近年では、生成AIをはじめとする高度なデジタル技術の進展により、新たな価値創出の可能性が広がる一方で、セキュリティやプライバシーへの対応、適切な利活用の枠組み整備がこれまで以上に求められています。

保健福祉システム部会は、地域医療連携、在宅医療、健康・健診、介護・福祉・保険制度など、多岐にわたる分野を対象として活動しており、社会基盤を支える重要な役割を担っています。

特に、

- ・ 地域における情報連携基盤の整備
- ・ 医療・介護・福祉のデータ連携と標準化
- ・ 健康寿命延伸に向けた国民主体の健康管理の実現
- ・ 制度改正や政策動向への対応・提言

などを通じて、業界としての知見を結集し、実装可能な仕組みづくりを推進していくことが求められています。

このような状況の中、当部会としては、関係省庁・団体・他部会との連携を一層強化しながら、標準化・ルール形成・政策提言を通じて、次世代の保健医療福祉システムの実現に貢献してまいります。

また、データ利活用の高度化と安全性確保の両立、さらには新たなビジネス創出への貢献といった観点から、産業界としての価値発揮にも積極的に取り組んでいく所存です。

私自身、これまでの経験を活かしつつ、会員の皆様の知見とご協力をいただきながら、過去から積み上げられてきた強固な土台をベースに保健福祉システム部会の活動をさらに発展させていきたいと考えております。

保健福祉システム部会の活動を通じ、医療・保健・福祉分野の発展に資するとともに、JAHIS会員の皆様への価値提供に尽力してまいります。

会員の皆様におかれましては、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

標準化推進部会

医療情報システムにおける 標準類オーバービューチャート改版

普及推進委員会 委員長 かさぎ ひろき 笠置 大樹 (富士通Japan㈱)



1. はじめに

近年、医療DXの推進により、医療情報の標準化を取り巻く環境は大きく変化しています。全国医療情報プラットフォームの構築、電子カルテ情報共有サービスの運用、PHRとの連携、生成AIをはじめとしたデータ活用的高度化など、医療情報を施設内に閉じず、医療・介護・行政・研究開発へと広くつなげていくことが求められています。こうした取り組みを支える基盤として、医療情報の標準化はこれまで以上に重要な役割を担っています。

2. オーバービューチャートとは

このような背景のもと、標準化推進部会普及推進委員会では、「医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート」のアップデートを実施しました。本チャートは、医療情報システムに関連する標準類を体系的に整理し、その役割や相互関係を俯瞰的に理解できるようにしたものです。2015年に初版を公開し、2023年には医療DXや標準化動向の変化を踏まえた改版を行いました。今回はVer2.1aとして、2023年改版以降に制定・改訂された厚生労働省標準規格やJAHIS標準への対応を中心に内容を更新しています。医療情報分野では、厚生労働省標準規格、JAHIS標準、HL7関連規格、コード体系、マスター、通信仕様など多数の標準類が存在しています。しかし、個々の標準類の内容を理解していても、それらがシステム全体の中でどのような役割を果たし、どのように連携しているのかを把握することは容易ではありません。オーバービューチャートは、電子カルテシステムを中心とした医療情報システム全体を俯瞰しながら、各標準類の位置付けを整理するための「標準化の地図」として活用できるよう作成されています。

3. オーバービューチャートの活用

本チャートは、電子カルテを中心とした医療情報システムの全体像と、そこで利用される標準類の関係を俯瞰的に理解するためのツールです。医療機関においては、システム更改や医療DX推進を検討する際に、将来のデータ連携や相互運用性を見据えて、どの標準類への対応が必要となるかを整理するために活用できます。また、ベンダーと医療機関、あるいは複数のベンダー間でシステム連携に関する議論を行う際の共通言語としても有効です。さらに、医療情報に携わる技術者や病院職員が標準化の全体像を理解するための教材として活用できることから、医療DX人材や標準化人材の育成にも有効なツールとして既に教育や研修の場で利用が始まっています。

実際に、日本医療情報学会の代表理事である横井先生が医療DX人材育成をテーマとして医学誌に寄稿した記事においても、本オーバービューチャートが医療情報標準化を体系的に理解するための有益な教材とし

て紹介されました。

オーバービューチャートはJAHISホームページからダウンロードすることができ、チャート上に掲載された各標準類から関連する解説・仕様等の詳細ページへアクセスすることも可能です。そのため、標準化に初めて触れる方が全体像を把握しながら個別の標準を学ぶ際にも有用です。

近年、医療DXの推進に伴い、医療情報標準化に関する知識を持つ人材の重要性はますます高まっています。本チャートは、研修や勉強会、大学や医療機関における教育の場など、人材育成のための教材として既に活用され始めており、標準化の普及・啓発を支える実践的なツールとしての役割も期待されています。

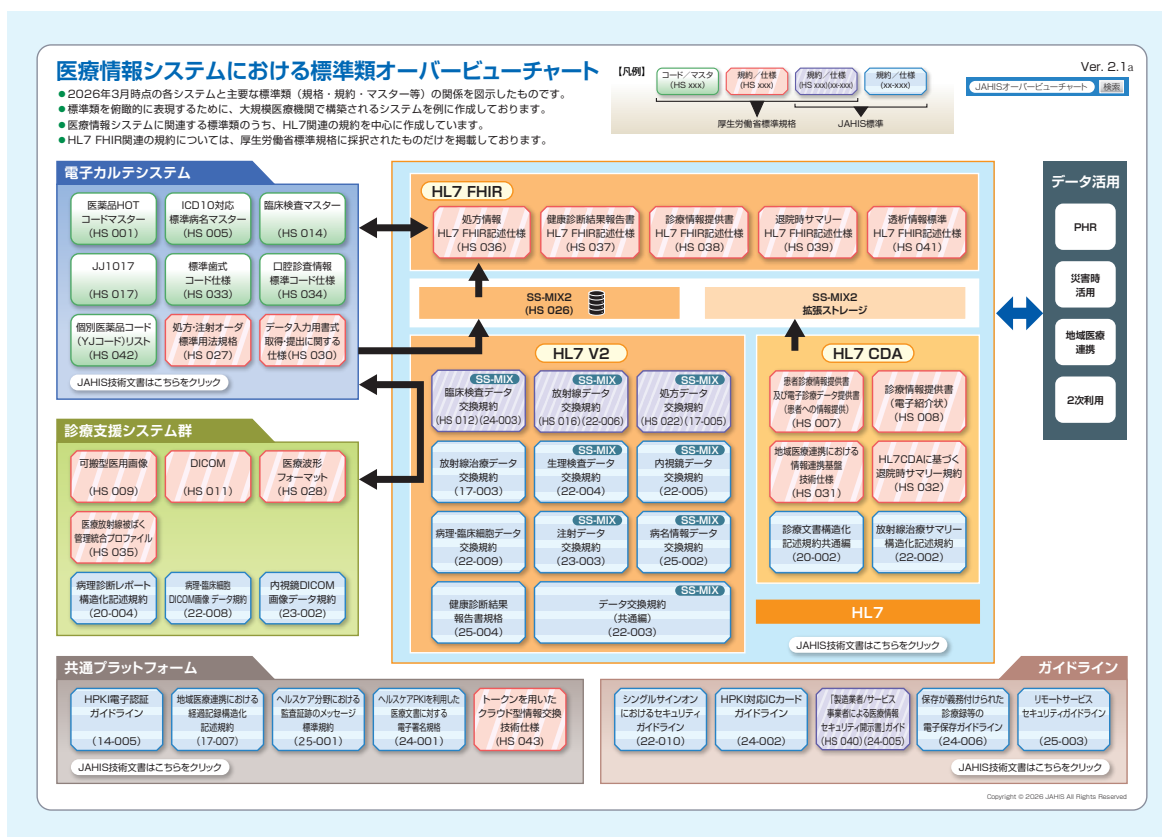


図 オーバービューチャート Ver. 2.1a

4. おわりに

今後、標準化された医療データの利活用が進むことで、より質の高い医療の実現や新たなイノベーションの創出が期待されます。その実現には、個々の標準規格への対応に加え、標準類全体の位置付けや相互関係を理解し、活用していくことが重要です。

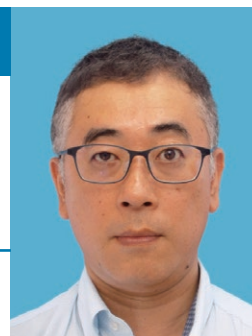
本オーバービューチャートが、医療情報標準化の全体像を共有するためのツールとして活用され、医療機関、ベンダー、行政が一体となった医療DXのさらなる推進と、新たな価値創出につながることを願います。また、こうした標準化の普及や人材育成をさらに推進するためには、多様な立場の方々の知見と協力が不可欠です。医療情報標準化の普及・啓発活動に関心をお持ちの方には、ぜひJAHIS普及推進委員会の活動にご参加いただき、ともに医療DXの未来づくりに取り組んでいただければ幸いです。

最後になりますが、今回のアップデートにあたりご協力いただきました普及推進委員会のメンバー、そしてJAHIS事務局の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

医事コンピュータ部会

令和8年度診療報酬改定(歯科)の振り返り

さとう たかあき
 歯科システム委員会 委員長 佐藤 孝昭 (株)ノーザ



1. はじめに

「診療報酬改定DX」の推進により令和6年度の診療報酬改定から、医療機関・薬局及びベンダーの集中的な業務負担を平準化するため、従来の4月1日施行が2ヶ月後ろ倒しの6月1日施行となってから、今回2回目の診療報酬改定となります。歯科分野において、令和8年度診療報酬改定における主なトピックを紹介します。

2. 令和8年度診療報酬改定(歯科)の概要

令和7年12月24日大臣折衝事項の結果、診療報酬改定の改定率は次のとおりとなりました。令和6年度診療報酬改定時以上に賃上げ、物価上昇への対応が充実しており、歯科点数表の改定率は+0.31%となりました。(図.2-1)

令和8年度診療報酬改定について (令和7年12月24日大臣折衝事項)			
1. 診療報酬 +3.09% (R8年度及びR9年度の2年度平均。R8年度+2.41%、R9年度+3.77%) (R8年6月施行)			
※1 うち、賃上げ分 +1.70% (2年度平均。R8年度+1.23%、R9年度+2.18%) ・医療現場での生産性向上の取組と併せ、R8・R9にそれぞれ3.2% (看護補助者、事務職員は5.7%) のペアを実現するための措置 ・うち、改定率の0.28%分は、医療機関等における賃上げ余力の回復・確保を図りつつ幅広い職種での賃上げを確実にするための特例的な対応			
※2 うち、物価対応分 +0.76% (2年度平均。R8年度+0.55%、R9年度+0.97%) ・特に、R8以降の物価上昇への対応として+0.62% (R8年度+0.41%、R9年度+0.82%) を充て、施設類型ごとの費用関係データ等に基づき配分。 (病院+0.49%、医科診療所+0.10%、 歯科診療所+0.02% 、保険薬局+0.01%) ・また、改定率の0.14%分は、高度医療機能を担う病院(大学病院を含む)が物価高の影響を受けやすいこと等を踏まえた特例的な対応			
※3 うち、食費・光熱水費分 +0.09% (入院時の食費基準額の引上げ(40円/食)、光熱水費基準額の引上げ(60円/日)) ・患者負担の引上げ：食費は原則40円/食(低所得者は所得区分等に応じて20~30円/食)、光熱水費は原則60円(指定難病患者等は据え置き)			
※4 うち、R6改定以降の経営環境の悪化を踏まえた緊急対応分 +0.44% ・配分に当たっては、R7補正予算の効果を減じることのないよう、施設類型ごとのメリハリを維持 (病院+0.40%、医科診療所+0.02%、 歯科診療所+0.01% 、保険薬局+0.01%)			
※5 うち、後発医薬品への置換えの進捗を踏まえた処方・調剤に係る評価の適正化、実態を踏まえた在宅医療・訪問看護関係の評価の適正化、長期処方・リフィル処方の取組強化等による効率化 ▲0.15%			
※6 うち、※1~5以外の分 +0.25% 各科改定率：医科+0.28%、 歯科+0.31% 、調剤+0.08%			
2. 薬価等		3. 診療報酬制度関連事項	
薬価：▲0.86% (R8年4月施行) 材料価格：▲0.01% (R8年6月施行) 合計：▲0.87%		① R9年度における更なる調整及びR10年度以降の経済・物価動向等への対応の検討 ② 賃上げの実効性確保のための対応 ③ 医師偏在対策のための対応 ④ 更なる経営情報の見える化のための対応	
		4. 薬価制度関連事項	
		① R8年度薬価制度改革及びR9年度の薬価改定の実施 ② 費用対効果評価制度の更なる活用	

2

図.2-1 令和8年度診療報酬改定について (大臣折衝)

[出典] 令和8年3月5日 令和8年度診療報酬改定の概要【歯科】 厚生労働省保険局医療課

令和8年度診療報酬改定（歯科）の主なポイントとして以下の6点が示されました。（図.2-2）

- 1) 物価や賃金、人材確保等への対応
- 2) かかりつけ歯科医機能の評価
- 3) リハビリテーション・栄養管理・口腔管理の更なる推進
- 4) 地域において訪問診療等を積極的に担う医療機関の評価
- 5) 人口・医療資源の少ない地域への支援
- 6) 生活の質に配慮した歯科医療の推進、デジタル化の推進

令和8年度歯科診療報酬改定の主なポイント(歯科)

1. 物価や賃金、人材確保等への対応

- 物件費の高騰を踏まえた対応
 - ・物価高騰による医療機関の物件費負担の増加を踏まえ、歯科初再診料等の評価の引き上げや物価高騰に対応する評価の新設
- 賃上げに向けた評価の見直し
 - ・歯科医療従事者の賃上げを更に推進するとともに、歯科技工所に所属する歯科技工士の確実な賃上げを図る評価の新設

2. かかりつけ歯科医機能の評価

- かかりつけ歯科医による歯科疾患・口腔機能の管理等の推進
 - ・初診時及び再診時における歯科疾患管理料の評価の統一
 - ・小児口腔機能管理料及び口腔機能管理料の評価の引上げ及び対象患者の拡大
 - ・口腔粘膜湿度検査の導入
- 継続的・効果的な歯周病治療の推進
 - ・歯周基本治療後の包括治療である歯周病安定期治療及び歯周病重症化予防治療の統合
 - ・主治医から紹介された糖尿病患者の歯周病治療に係る加算の運用の見直し

3. リハビリテーション・栄養管理・口腔管理の更なる推進

- 入院患者の口腔管理における医科歯科連携の推進
 - ・連携を行っている歯科標準のない病院等の依頼により、入院患者に歯科訪問診療を実施した場合の加算の新設

4. 地域において訪問診療等を積極的に担う医療機関の評価

- 質の高い在宅歯科医療の提供の推進
 - ・在宅支援歯科診療所及び在宅療養支援歯科病院における歯科訪問診療1を実施した場合の加算の新設
 - ・同一建物に居住する多数の患者に対する歯科訪問診療を適切に提供するため、歯科訪問診療4及び歯科訪問診療5の施設基準を新設 等
- 訪問歯科衛生指導の適切な推進
 - ・指導を実施した人数に応じた評価の見直し 等
- 在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料の充実
 - ・対象患者の拡大及び歯科医の指示を受けた歯科衛生士による指導の評価の新設 等

5. 人口・医療資源の少ない地域への支援

- 歯科巡回診療に係る適切な推進
 - ・都道府県等と連携して実施する歯科巡回診療車を用いた巡回診療の評価の新設 等

6. 生活の質に配慮した歯科医療の推進、口腔機能発達不全及び口腔機能低下への対応の充実、歯科治療のデジタル化の推進

- 障害者歯科治療における歯科医学的管理の新たな評価
 - ・障害者治療を専門に行う歯科医療機関の特別な歯科医学的管理の評価の新設
- 小児口腔機能管理料及び口腔機能管理料の見直し } (2.に記載)
- 継続的・効果的な歯周病治療の推進
- 有床義歯管理の評価体系の見直し
 - ・新製有床義歯管理料の算定単位や評価体系の見直し 等
- 小児の咬合機能獲得に向けた対応の充実
 - ・小児保険装置に対する調整や修理の評価の新設 等
- 歯科矯正に係る患者の対象等の見直し
 - ・連続する3歯以上の先天性欠損歯を有する者の追加 等
- 周術期及び回復期等の口腔機能管理の推進
 - ・周術期及び回復期における管理計画の修正を行った場合の評価の新設 等
- 歯科衛生士による実地指導の推進
 - ・歯科衛生士が口腔機能に関する実地指導を行った場合の評価の新設 等
- 歯科医師と歯科技工士の連携の推進
 - ・歯科技工士連携加算における評価の範囲の拡大や施設基準の見直し 等
- 歯科治療のデジタル化の推進、歯科用貴金属材料の価格状況への対応
 - ・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレーに係る大臼歯の咬合支持要件の見直し 等
 - ・光学印象の対象に係るCAD/CAM冠の拡充
 - ・部分床義歯のクラスプやバーの材料に係る運用（歯科用貴金属材料以外の材料を使用）の見直し
 - ・3次元プリント有床義歯や鋳造チタンブリッジの評価の新設
- 歯科固有の技術の評価
 - ・デンボラリークラウンや歯周治療用装置（冠形態）等を統合した評価の新設
 - ・麻酔薬剤料の算定項目の拡充
 - ・歯科吸入麻酔や歯科静脈麻酔の評価の新設
 - ・加圧根管充填処置や抜歯手術の加算（下顎水平埋伏歯等）の評価の引上げ 等

図.2-2 令和8年度歯科診療報酬改定の主なポイント（歯科）

【出典】令和8年3月5日 令和8年度診療報酬改定の概要【歯科】 厚生労働省保険局医療課

3. 令和8年度診療報酬改定（歯科）においてベンダー対応として影響があった事項

令和8年度診療報酬改定（歯科）は多くの内容が記載されていますが、中でもベンダーにインパクトがあった事項は次の内容となります。

1) 歯科巡回診療の実施が診療報酬として評価された点

概略として、歯科巡回診療車を用いて巡回診療を実施した場合の評価として、歯科初診料・歯科再診料に「地域歯科医療加算 100点」が新設されました。また、地域歯科医療加算を算定した患者に対し、巡回診療時に処置、手術、歯冠修復及び欠損補綴を行った場合は所定点数の100分の30に相当する点数を加

算することができるようになりました。

3月上旬に公表された告示・通知では歯科巡回診療が外来診療となるのか、在宅医療となるのかが判断つきにくい状況でした。令和8年3月27日に厚生労働省医政局長から『「巡回診療の医療法上の取り扱いについて」及び「医療機関外の場所で行う健康診断の取り扱いについて」の改正について』という通知が発出されたことにより、外来診療であることが明確になりました。

2) 特定保険医療材料の機能区分の見直しについて

令和8年度改定において、特定保険医療材料の機能区分の見直しが行われ、歯科においては人工歯の機能区分が下表のとおり変更となり、点数算定方法の確認に時間を要することとなりました。最終的には5月8日に公表された「疑義解釈資料の送付について（その5）」によって点数計算方法が確認されました（表.3-1）。

品名	旧機能区分 (単位・価格)	新機能区分 (単位・価格)
027 陶歯 前歯用（真空焼成歯）	6本1組：1,870円	1歯：312円
028 陶歯 臼歯用（真空焼成歯）	8本1組：1,010円	1歯：126円
031 レジン歯 前歯用（JIS適合品）	6本1組： 241円	1歯： 40円
032 レジン歯 臼歯用（JIS適合品）	8本1組： 235円	1歯： 29円
033 スルフォン樹脂レジン歯 前歯用	6本1組： 620円	1歯：103円
034 スルフォン樹脂レジン歯 臼歯用	8本1組： 866円	1歯：108円
035 硬質レジン歯 前歯用	6本1組： 582円	1歯： 97円
036 硬質レジン歯 臼歯用	8本1組： 733円	1歯： 92円

表.3-1 人工歯の機能区分の変更

3) 歯科吸入麻酔又は歯科静脈麻酔の新設に関する事項

歯科吸入麻酔又は歯科静脈麻酔の新設に関しては、歯科点数表の通則2に全身麻酔であるか否かで点数計算方法が変わってしまうため確認に時間を要しました。6月下旬に全身麻酔であるとの見解をいただいたが、7月17日の「疑義解釈資料の送付について（その10）」によって全身麻酔ではないことが確認されました。

【令和8年3月5日 歯科点数表（告示） 麻酔 抜粋】 通則2 6歳未満の乳幼児又は著しく歯科診療が困難な者に対して麻酔を行った場合は、全身麻酔の場合を除き、当該麻酔の所定点数に所定点数の100分の50に相当する点数を加算する。

4) 歯科用貴金属材料価格の随時改定

歯科用貴金属材料価格の随時改定は毎年3月、6月、9月、12月に実施されます。診療報酬改定のときは、3月の告示・通知では3月時点の歯科用貴金属価格となっています。6月1日適用分の歯科用貴金属材料価格の公表の流れについて、令和6年度と令和8年度で対応の違いがありました。

令和6年度のときは、「特定保険医療材料及びその材料価格（材料価格基準）の一部改正に伴う特定保険医療材料料（使用歯科材料料）の算定について（保医発0305第10号）」において下記の記載があることで、別途通知が出ることを認識できており、令和6年4月30日の事務連絡が発出されていました。一方、令和8年度には3月5日の通知には記載が全くなく、ベンダーにとっては突然の公表により追加で診療報酬改定対応を予定することとなりました。

【令和6年3月5日 「特定保険医療材料及びその材料価格（材料価格基準）の一部改正に伴う特定保険医療材料料（使用歯科材料料）の算定について（保医発0305第10号）」 抜粋】 5 その他 材料価格基準別表Ⅵに掲げるもののうち、002から006まで及び010から013までの規定並びに本通知の別紙1に掲げるもののうち、M002の1の（1）、M010、M010-3、M010-4の1、M011、M017、M020の1及び2、M021の2、M021-2の1、M021-3の2の（根面板の保険医療材料料（1歯につき））並びにM023の1の（1）については、改正材料価格基準及び「特定保険医療材料及びその材料価格（材料価格基準）の一部改正に伴う特定保険医療材料料（使用歯科材料料）の算定について」の一部改正について（令和6年3月5日保医発0305第9号）の価格と同一であるが、いずれも令和6年6月1日に別途改正予定であること。

4. 診療報酬改定後ろ倒しの令和8年度における歯科システム委員会の取組

令和6年度、令和8年度と2度の診療報酬改定後ろ倒しを経験し、3月の告示・通知により6月施行までの間システム改修に時間をかけることは可能な状況ですが、システム改修上判断に悩む点を解消するために参照する疑義解釈や訂正通知の発出が施行日近くに出してしまうことや、施行日直前の新規特定保険医療材料の収載により、その都度システム改修が発生しました。

また、疑義解釈の件数についても、施行日までの歯科点数表の疑義解釈の件数は、令和6年度は92件であったことに対し、令和8年度は26件と3割未満に減少しています。歯科システム委員会では、会員各社から上がった疑義を関係機関に照会を行いながら情報提供を行いました。

5. おわりに

電子処方箋や電子カルテ情報共有サービスをはじめとした医療DXの推進、高額療養費制度の改正等が進んでいる中で診療報酬改定の対応を行っている状況であるため、早期の疑問解消が必要となっています。

歯科システム委員会では、引き続き関係機関と連携し、情報収集や疑義照会を行い早期に疑問解消ができるよう情報発信を積極的に進めていきたいと考えています。

今後とも会員各社様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

医療システム部会

JAHIS/JIRA合同リモートサービス セキュリティ作成WG

JAHIS/JIRA合同リモートサービスセキュリティ作成
WGリーダー まつもと よしかず
松本 義和 (サイバートラスト㈱)



1. はじめに

JAHIS/JIRA合同リモートサービスセキュリティ作成WGでは、ネットワークを介したリモートサービスを題材に、医療機関の機器およびシステム内に有する個人情報保護のためのリスク評価・管理手法、そして技術的および運用的セキュリティ対策について検討を進めています。

この度、JAHIS標準(25-003)として「リモートサービス セキュリティガイドライン Ver.5.0」を公開いたしました。最新のガイドラインで追加した内容を解説しながら、当WGの活動を報告いたします。

2. 事故事例からの学び：リモートサービスと情報セキュリティインシデント

直近の数年間において、国内の医療機関へのサイバー攻撃が急増しています。いわゆるランサムウェア攻撃(身代金要求型攻撃)によって、PCやサーバーが暗号化され使えない状態に陥り、診療行為が滞ってしまう被害が現実となりました。

(1) 被害に遭ってしまった医療機関等の共通点

サイバー攻撃の多くは、システムや組織の脆弱性を狙って攻撃を成立させます。一般的に、この脆弱性がなければ攻撃が成功しないことになります。サイバー攻撃の被害に遭ってしまう企業や医療機関では、インターネットに接続する通信機器が放置され、購入時からのセキュリティパッチを更新していない危険な状態のままになっていました。玄関の鍵をかけないまま長期旅行に出かけている、攻撃者にとっては格好の標的となっています。

定期的なセキュリティパッチの適用が、サイバー攻撃に対する最低限の対策であることを改めて認識させられます。

(2) 原因はリモートサービスだったのか

脆弱性が潜在する状態の通信機器を、医療機関等へのリモートサービスで使用することは厳禁です。しかしながら、医療機関の後を絶たないサイバー攻撃の被害はこういった脆弱性の放置が原因となっています。

ではなぜ、このような情報セキュリティインシデントが減らないのか。そこには医療機関とリモートサービスベンダーとの構造的な問題に起因していることが分かってきました。リモートサービスに関する契約やSLAに、通信機器のセキュリティパッチ対応に代表される日々の運用に関する項目が欠落していることが散見されます。情報セキュリティインシデントが発生してしまったとき、「誰が対応するのか」といった初動からの対応が後手になっ

てしまいます。BCP（事業継続計画）の発動に対しても不具合を生じさせる可能性が高く、リモートサービスを締結するときには必ず契約やSLA、SDS（サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書）の内容を確認するようにしてください。

3. ガイドライン改定にあたり：リモートサービスのライフサイクルマネジメント

安全なリモートサービスを実施するためには、脆弱性への対応など情報セキュリティに関する合意形成が不可欠です。医療機関等とリモートサービスベンダーとの合意形成では、

- ・双方の運用管理を踏まえた形で役割分担を定め、その内容を情報提供に含めること
- ・安全管理の妥当性について医療機関等と共通理解を得るために、安全管理に係る評価（リスクアセスメント）を行い、評価結果を医療機関等へ情報提供すること

が重要です。

また、契約中の合意を維持することや、平常時における義務などを取り決めることなど、今回のガイドライン改定で追加しています。経済産業省の「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」とも整合をとり、産官学（医）のいずれの関係者にも読みやすい構成を心がけました。図1に示すように、リモートサービスのライフサイクルにおいてベンダに求められる義務や責任への対応方法を図式化し解説しています。

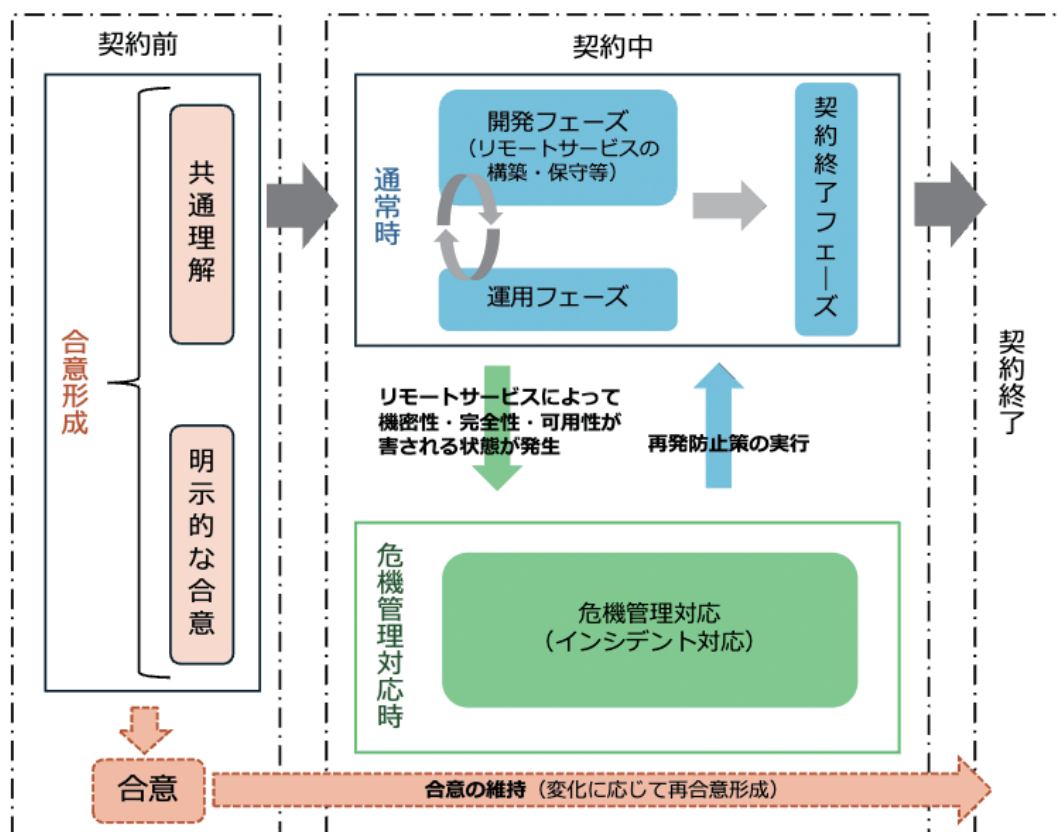


図1. リモートサービスのライフサイクル

4. 今後の展望：「拠り所（よりどころ）」としてのガイドラインを目指して

これまでにJAHIS標準「リモートサービス セキュリティガイドラインVer.5.0」（25-003）は、医療システム等に対するリスクアセスメントの手法を解説していることから、審査支払基金、医政局、消防庁など多くの機関で活用いただいております。また、最新の安全管理ガイドラインでも参照ドキュメントとしてポイントされました。

JAHIS標準としての歴史では初版から20年を迎え、社会情勢や医療現場の変化に追従しながら改定が続いています。リスクアセスメントの実務的な教本となれますよう、これからも進化してまいります。

5. おわりに

最後に、本稿の執筆にあたり、日頃よりWG活動にご賛同いただいている参画企業の皆様、および医療システム部会の関係各位に深く感謝申し上げます。

保健福祉システム部会

地域連携ネットワークの最新動向
～現状の論点と今後の在り方～

地域医療システム委員会 副委員長 みつぎもとひろ 光城 元博 (富士フイルム㈱)



1. はじめに

わが国では、地域連携ネットワーク（以下、地連NW）は、地域内の医療機関、薬局、介護事業者等が診療情報を共有し、切れ目のない医療・介護サービスを提供するための基盤として発展してきました。電子カルテの普及や医療機能分化・連携など政策上の後押しもあり、2000年代後半から各地で整備が進み、現在では全国で約300の地連NWが運用されています。平均運用年数は10年以上、1地連NW当たりの平均参加施設数は143施設を超え¹⁾、地域医療における重要なインフラとなっています。

一方で、国の医療DXの推進施策により全国医療情報プラットフォーム（以下、全国PF）や電子カルテ情報共有サービス（以下、電カル共有）の開発・試行が進み、地連NWの役割や将来像が改めて問われています。本稿では直近一年間の最新動向を整理するとともに、全国PFと地連NWの現状の論点と今後の方向性を示します。

2. 直近一年間の主な動向

(1) 改正医療法と医療DXの推進

2025年12月に成立した改正医療法では、従来の病床機能を中心とした地域医療構想を、入院、外来、在宅医療、介護との連携を含む医療提供体制全体へと拡大する方針が示されました。また、市町村の参画が明確化され、在宅医療や介護を含む地域全体での情報共有が重要な政策課題として位置付けられました。さらに、2030年末までに電子カルテ普及率約100%を目指す方針やクラウド技術の活用、オンライン診療の法的位置づけの明確化、医療情報の二次利用の推進も盛り込まれました²⁾。

このように、医療DX政策の進展に伴い、全国PFと地連NWの共存・連携する仕組みは、地域包括ケアシステム全体を支える情報連携基盤として、今後さらに重要性を増していくと考えられます。

(2) 電子的診療情報連携体制整備加算の新設

2026年度診療報酬改定では、「電子的診療情報連携体制整備加算」が新設されました。これは、地域において診療情報を継続的に共有できる環境を評価するものであり、地連NWの活用を後押しする制度として注目されています。

施設基準として、

- 複数医療機関間で検査結果や画像情報を共有できること

- ・参加医療機関が10施設以上であること
- ・診療情報を開示する病院が2施設以上存在すること
- ・登録患者数1,000人以上、または年間新規登録患者100人以上であること
- ・「診療情報提供料（I）の検査・画像情報提供加算」または「電子的診療情報評価料」の施設基準取得などが要件として示されています³⁾。

また、厚生労働省は2026年6月の疑義解釈において、チャットツールやメーリングリスト等による単純な情報共有は要件を満たさないことを明確化しました。診療情報そのものを電子的に共有・閲覧できる仕組みであることが求められています⁴⁾。

(3) 電子カルテ情報共有サービスの具体化

2026年5月の厚生労働省の医療等情報利活用ワーキンググループでは、電カル共有の運用方針が具体化されました。特にアナフィラキシーを含む重篤なアレルギー情報の共有、アレルギーコードの標準化、医療従事者向け利用指針の整備等が示されています⁵⁾。

また、今後の地連NWのあり方として「医療情報や介護情報の電子的共有の地域における費用対効果やその影響因子については、今後も評価を継続することが望ましいのではないか。またこうした知見を踏まえ、全国PFや地連NWなど情報共有のシステムについて、各地の業務にあったシステムを各地域や各医療機関で選択できるよう、支援していくこととする」などの方向性が示されています⁵⁾。

電カル共有は全国PFの中核機能として期待されていますが、共有対象となる情報は限定的であるため、地連NWとの役割分担が重要なテーマとなっています。

(4) 救急時医療情報閲覧機能の普及

2024年12月より運用開始された救急時医療情報閲覧機能は、2026年5月時点で950施設に導入されています。患者の同意取得が困難な救急時においても、薬剤情報、受診歴、手術歴等を閲覧できる仕組みであり、迅速な診断と治療に寄与しています。さらに2026年からは院内処方情報も救急サマリーに追加され、救急医療における情報共有の質が向上しています⁵⁾。

2026年度の診療報酬改定では、救急時医療情報取得加算（50点）や急性期総合体制加算1～5（530点～60点）の算定要件に救急時医療情報閲覧機能を有することが示されたため、今後、さらなる利用拡大が見込まれます。

3. 地連NWの現状と課題

2025年度の厚生労働省研究事業として実施され、2026年3月にフォーティエンスコンサルティング株式会社が取りまとめた調査研究報告書⁶⁾では、地連NWの利用実態が詳細に分析されました。なお、分析項目にはJAHIS技術文書「JAHIS地域医療連携の評価指標に関するガイドVer.1.0」に示されている評価指標が引用されています。

本報告書では、多くの地連NWにおいて登録患者数は増加している一方で、月間アクティブ施設率（実際に地連NWを利用する施設数）は20～40%程度にとどまり、登録施設数と実利用施設数の間に乖離がある

ことが明らかになりました。

利用頻度の高い地連NWでは、

- プログレスノート（診察記事、医師記録）
- 検体検査結果
- 画像情報
- 読影レポート

などが高頻度で閲覧されています。特に山形県の「ちょうかいネット」では、電カル共有では提供されないプログレスノートへの需要が高いことが確認されました。

また、導入効果として、

- FAX業務の削減
- 検査予約業務の効率化
- CD-R搬送の削減
- 紹介・逆紹介の円滑化

などが報告されています。

一方で運営面の課題も少なくありません。年間運営費用は数十万円から数千万円まで大きな差が存在し、公的補助金への依存度も地域によって異なります。費用負担者が効果を十分に実感できない場合、運営継続が困難になる事例も見られます。実際、一部の地連NWは費用対効果や更新費用の問題から運用終了となりました。

4. 最大の論点：全国PFと地連NWの関係

現在、最も重要な論点は、全国PFと地連NWの役割分担です。日本医師会常任理事の長島公之先生は、「全国PFは新幹線、地連NWはローカル線のようなものである。患者、地域住民には新幹線とローカル線の両方が必要不可欠であることから、両者を連携し、地域の特性やニーズに応じた運用が望ましい」⁷⁾と例えています。全国PFは全国規模で標準化された情報共有を実現する一方、地連NWは地域特性に応じた柔軟な運用が可能であり、両者は競合するものではなく補完関係にあると指摘なさいました。

フォーティエンス報告⁶⁾でも、地連NWでは、

- 診療録（2号用紙）
- 地域独自の診療サマリー
- 多職種連携情報
- 介護情報
- 検査予約機能

など、全国PFでは十分に提供されない機能が活用されていることが確認されました。

今後は「どちらか一方を選択する」のではなく、「それぞれの強みを活かして連携する」という発想が重要となります。

5. 今後の在り方

今後の地連NWには、三つの方向性が求められます。

第一に、全国PFとの補完関係を前提とした役割の再定義です。今後さらに増加する後期高齢者のケアにおいては、本人の生活背景や価値観、希望に寄り添うナラティブ情報の活用が重要です。電カル共有で提供されない地域独自の情報やリアルタイムな多職種連携機能、検査予約（CT、MRI、PET等高額な医療機器の共同利用）こそ、地連NWが担うべき領域です。

第二に、災害時など新たな利用価値の創出です。近年、増加している線状降水帯や大雨特別警報発令時、避難所の医療提供・健康管理に地連NWが持つ情報は、地域住民の安心・安全の確保に有用です。

有事にデジタル技術を活用するためには、平時から日常的に利用されるデジタルツールとして定着していることが重要です。普段使っているツールでなければ、いざというときにID・パスワードや操作方法を忘れてしまい十分に活用できません。平時の利活用シーンとして、地連NWがあり、有事にも患者や要援護者の命や暮らしを守る社会インフラが、地連NWの価値です。

第三に、生成AIの急速な発展による機会と脅威への対応です。地連NWは多職種由来の多様な情報を参照できるため「医療職の専門用語や略語が介護職に伝わらない」「介護職の記録は叙述的であり読むのに時間がかかる」「目的の情報がどこに書かれているか分からない」などの問題点が指摘されています。これまでは職種ごとに表示項目や画面遷移を設計する工夫や、簡潔に伝えるための入力トレーニングなどを行ってきましたが、今後は生成AIとプロンプトエンジニアリングにより利用者ごとに適した要約や用語変換が可能となっていくます。

労働時間短縮や働き方改革を目的にした、生成AI文書作成サービスの利用が拡大しています。しかし、クラウド型生成AIの場合、自院のセキュリティポリシー等で使用できない事や、ゲートウェイサーバ設置等の追加費用がかかる場合があります。地連NWがクラウド型の生成AI活用のプラットフォームとして機能すれば、地連NW参加施設は、セキュアかつ比較的低廉にクラウド型生成AIを活用できると考えます。

米Anthropic社が2026年4月に発表した極めて高性能なAIモデル「Claude Mythos」は、人間でも気付けない未知の脆弱性を自律的に探知し、自動的に攻撃する能力を有する可能性が指摘されており、医療機関や介護事業所が個別に対策を強化するには、資金面や人材面で限界があります。地連NWがセキュリティ対策や診断サービス、データバックアップ機能を提供すれば、ネットワーク上で接続されている全ての施設が恩恵を受けられます。また新たな地連NWの価値提供につながると考えます。

厚生労働省は「Claude Mythos」対策として2026年5月22日、日本医師会や日本病院会、全日本病院協会など医療団体の幹部、工業界（JAHIS、医機連）を招き、「医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策に関する厚生労働省との意見交換」を開催しました。AIを悪用したサイバー攻撃を想定した体制整備が重要です。

おわりに

地連NWは、全国PFの整備が進む中でも、その役割を失うものではありません。むしろ、診療録や地域

独自情報、ナラティブ情報などを共有する地域密着型の情報基盤として、超少子高齢化・人口減少が進む社会において、その価値は再評価されつつあります。2027年度事業予算においても、地域医療介護総合確保基金を活用し、地域医療構想の実現に向けた地連NWを促進する事業を各地域で意欲的に取り組んでいます⁸⁾。

今後は全国PFとの補完関係を明確化しながら、実利用に基づく公費支援を受け、持続可能な運営モデルの確立を進めることが、地域医療におけるDX推進に不可欠です。

引用資料

1. 日医総研ワーキングペーパー「ICTを利用した全国地域医療連携の概況（2024年度版）」2025年9月公表
2. 厚生労働省 第122回社会保障審議会医療部会「医療法等の一部を改正する法律の成立について（報告）」、2025年12月8日
3. GemMed「電子的診療情報連携体制整備加算における電子処方箋・電子カルテ等要件の詳細など示す一疑義解釈4」2026年4月24日
4. 厚生労働省保険局医療課 事務連絡「疑義解釈資料の送付について（その8）」2026年6月17日
5. 厚生労働省 健康・医療・介護情報利活用検討会 医療等情報利活用ワーキンググループ「電子カルテ情報共有サービスに関する検討事項について」2026年5月29日
6. フォーティエンスコンサルティング株式会社「令和7年度地域医療情報連携ネットワーク調査研究事業一式最終報告書」2026年3月31日
7. 「令和6年度 日本医師会 医療情報システム協議会」2025年3月8日～9日
8. 神奈川県「医療介護総合確保促進法に基づく神奈川県計画（令和9年度分）へ位置づける事業提案を募集します!」2026年5月11日

2025年度表彰受賞者の紹介



2026年6月9日 第16期定時社員総会での記念撮影（経団連会館）

2025年度に各種委員会やプロジェクト等の活動において、次頁の皆様が受賞されました。それぞれの受賞理由と受賞者コメントを掲載いたします。

部門	奨励賞 (個人)	奨励賞 (連名)	功績賞 (個人)	功績賞 (連名)	功績賞 (グループ)	合計
戦略企画部				3		3名
医事コンピュータ部会	1		1		6	8名
医療システム部会	2		3	3	5	13名
標準化推進部会	2					2名
保健福祉システム部会				3		3名
事業推進部				2		2名
総務会						
合計	5名		4名	11名	11名	31名

功績賞	戦略企画部	絵本製作TF リーダー (キヤノンメディカルシステムズ(株)) き ど す み こ 木戸 須美子		
絵本「ぐるぐるデータのおくりもの」の プロモーションによるJAHISの知名度および プレゼンスの向上		絵本製作TF 委員 (日本電気(株)) お や ま み さ こ 小山 美佐子		
絵本製作TF 委員 (日本電気(株)) お が わ ゆ う だ い 小川 雄代		絵本製作TF 委員 (コニカミノルタ(株)) お が わ ゆ う だ い 小川 雄代		

受賞理由：

昨年度制作した絵本「ぐるぐるデータのおくりもの」のプロモーションを率先して推進し、JAHISが掲げる『データ循環型社会』の理念を広く社会に浸透させることに貢献されました。これにより、JAHISの知名度およびプレゼンスの向上に大きく寄与した。

具体的には下記のプロモーション活動を展開し、絵本は第3刷まで重刷を達成。2,000冊を超える絵本を関係者および関係機関に届けることができた。

- ・JAHISウェブサイト内に申込ページを開設し、キャラクター「メディたん」を効果的に配置することで、アクセス数の増加と親しみやすさを実現
- ・チラシ配布を通じてウェブサイトへの誘導を実現
- ・医療情報学会や日本薬剤師会などの関係団体主催のイベントや国際モダンホスピタルショウなどにおいて絵本紹介・配付を通じて、JAHIS理念の周知活動を実施

タスクフォースメンバーのコメント：

この度は、JAHIS第16期定時社員総会において、木戸・小川・小山の3名連名にて功績賞を賜り、誠にありがとうございます。

今回、表彰をいただけたのは、TFメンバー並びに関係者の多大なるご協力があったからこそであり、深く感謝申し上げます。

本絵本は、JAHIS創立30周年記念事業の一環として、「データ循環型社会」の理念を、子どもから大人まで幅広い方々に親しみやすく伝えることを目的に制作いたしました。制作・推進にあたっては、木戸が全体統括を担い、小山がプロモーションのサブリーダーとして発信活動を推進し、小川がチラシやホームページなどの作成を担当いたしました。

プロモーション活動においては、ホームページを活用した配付を中心に、多くのイベントでチラシを配付いたしました。中でも、ホスピタルショウでは、多くの方に直接手に取っていただき、関心やご感想を寄せていただく機会にも恵まれました。2,000冊を超える絵本を日本全国と海外の医療機関様にもお届けできました。絵本という親しみやすい媒体を通じて、JAHISの理念や活動をより広く知っていただくきっかけをつくることができたこ

とを、3名一同、大変うれしく感じております。

今回の受賞を励みに、今後もJAHISの活動発信に努めるとともに、会員の皆様とともに医療情報分野の発展に貢献できるよう、3名一同、一層精進してまいります。引き続きご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

奨励賞 医事コンピュータ部会

歯科電子レセプト請求及び 令和8年度診療報酬改定への貢献

歯科システム委員会
歯科電子レセ専門委員会
副委員長 兼 専門委員長
(株ミック)

わたなべ ひろあき
渡辺 浩章



受賞理由：

1. 社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険中央会との基本マスター／電子レセプト定例会に積極的に参加し、歯科ベンダの立場として意見を発信し、随時状況報告を会員に行っている。

また、令和7年度診療報酬改定DX個別テーマミーティングについても、歯科システム委員会幹部で事前打ち合わせを行い、意見をとりまとめて歯科ベンダーの立場として意見を発信した。

2. 基本マスターや記録条件仕様、電子レセプトの記録方法に関する各種疑義のとりまとめ及び関係機関への疑義照会を中心となっていた。特記事項として、令和7年12月に「3次元プリント有床義歯」が新規保険適用となったがマスタ部分に誤りを発見し速やかな疑義照会おこない回答について会員へのスムーズな情報発信を行った。

また、令和8年診療報酬改定においても各種疑義のとりまとめシートを作成し厚生労働省・社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険中央会への疑義照会シートを提出し委員会の中で進捗及び現状について情報共有を実施した。

渡辺 浩章さんのコメント：

このたびは奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。

振り返りますと、基本マスターや電子レセプトに関する各種会議への参加、診療報酬改定DXにおける意見集約や提言、また疑義照会の取りまとめなど、歯科ベンダの立場から業界発展の一助となるよう活動してまいりました。

特に、会員の皆様から寄せられるさまざまな課題や疑問を関係機関へ伝え、その結果を迅速に共有することを心掛けてきました。今回の受賞は、こうした活動を評価していただいたものと受け止めております。

これもひとえに委員会関係者の皆様、会員各社の皆様のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

今後も医療DXの進展に対応しながら、会員の皆様のお役に立てる情報発信と業界への貢献に努めてまいります。

功績賞 医事コンピュータ部会	電子レセプト委員会（記載要領電子化専門委員会） 副専門委員長（サブリーダー） （富士通Japan㈱） おすみ しょうへい 大住 昇平 
2025年度（一財）医療保険業務研究会 受託論文作成の活動完遂	

受賞理由：

1. 2025年度（一財）医療保険業務研究協会・受託事業（調査研究事業）論文「医療DX推進に向けた診療報酬請求業務の変革：現状分析と未来への展望」において、サブリーダーとして、リーダーが繁忙な状況下においても自ら率先して具体的な提案を行うなど、本調査研究を主導し完遂した。本論文は、2017年調査研究（2016年改定）を基点として、2024年改定までの12年間の診療報酬改定の変遷を追い、医療DXにおける診療報酬請求業務およびそれを支えるシステムの未来像を示し、具体的な提言をまとめたものであり、専門性が高く、約60頁に及ぶものである。
2. 令和8年度改定作業が控え、作業は短期集中が求められる中、WG開催回数は延べ14回を開催。サブリーダーとして、自身を含む多忙なメンバー間の調整を行い、WGにおける進行や議事録作成を分担するなど、活動が円滑に進むよう重要な主体的役割を果たした。
3. 生成AIを活用したレビューや校正などの新たな取組みを積極的に導入し、作成・編集作業の論理性向上と効率化を実現するとともに、専門委員会メンバーの作業負担軽減に大きく貢献した。
4. 本調査研究成果（論文）は、医療保険業務研究協会より、厚生労働省等、関係機関および一般に公開される予定であり、JAHISのプレゼンス向上の貢献はもとより、JAHIS会員が今後の診療報酬改定対応を進める上での環境整備にも大きく寄与するものである。

大住 昇平さんのコメント：

この度は、栄誉ある功績賞を賜り、心より感謝いたします。

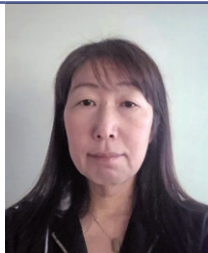
今回の受賞は、私一人の力で成し遂げられたものではなく、多くの皆様との協働の成果であり、深く御礼申し上げます。

特に、2025年度（一財）医療保険業務研究協会様との共同調査研究事業における、論文「医療DX推進に向けた診療報酬請求業務の変革：現状分析と未来への展望」では、リーダーの柴田様にご指導いただきながら、サブリーダーとして本調査研究を主導し、完遂することができました。本論文は、2017年調査研究を基点とした12年間の診療報酬改定の変遷から、医療DXにおける診療報酬請求業務およびシステムが向かうべき未来像を描き、多岐にわたる提言を約60頁に凝縮したものです。この専門性の高い内容をまとめ上げるにあたり、ワーキンググループの皆様、株式会社社会保険研究所の高橋様、井口様、そしてJAHIS事務局の前田部長の多大なるご尽力なしには、決して達成できませんでした。

また、令和8年度改定作業が目前に迫る中、延べ14回にも及ぶワーキンググループの開催においては、サブリーダーとして多忙なメンバー間の調整や、円滑な進行、議事録作成の分担などに主体的に関わらせていただきました。限られた時間の中で最大の成果を出すためのチームワークの重要性を改めて実感する機会となりました。

加えて、今回は生成AIを活用したレビューや校正といった新たな取り組みを積極的に導入いたしました。これにより、作成・編集作業の論理性向上と効率化を図るとともに、専門委員会メンバーの皆様の作業負担軽減にも貢献できたことを嬉しく思います。

この調査研究の成果が、医療保険業務研究協会様を通じて厚生労働省等の関係機関および一般に公開されることで、JAHISのプレゼンス向上だけでなく、JAHIS会員が今後、診療報酬改定対応を進める上での環境整備に大きく寄与できるものと期待しております。この度の受賞を糧とし、今後もJAHISの活動を通じて、医療情報システムのさらなる発展と医療DXの推進に貢献できるよう、一層精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

功績賞 医事コンピュータ部会		調剤システム委員会 副委員長 (株)EMテクノロジー研究所			
薬局分野の調剤報酬改定DXに係る意見具申		さとう かなえ 佐藤 夏苗			
副委員長 (ウィーメックス(株)) なか こ とよあき 中湖 豊明		副委員長 (ウィーメックス(株)) い で しん じ 井出 真司		調剤標準化専門委員会 委員長 (三菱電機デジタルイノベーション(株)) もり や かずあき 守屋 和昭	
調剤標準化専門委員会 委員長 (東日本メディコム(株)) の も と ただし 野本 禎		委員長 (三菱電機デジタルイノベーション(株)) み や じ ま つよし 宮島 毅			

受賞理由：

- 令和7年度に開催された、薬局個別テーマミーティング等において、JAHISから、医科のような共通算定モジュールの考え方では負担軽減効果が得られない、負担が増加する可能性があるといった意見を提示。負担軽減効果を得るために必要な対策を検討するため、厚生労働省保険局からの依頼で令和7年12月から3回に亘りJAHISと意見交換を実施。意見交換会の中では、薬局固有の算定要件等を資料にまとめ、厚生労働省、日本薬剤師会を交えた意見交換を行い、薬局向けの共通算定モジュールに必要な機能とともに、適切に対策を講じる上で官民の役割分担と連携に関しても議論を行い、内容を整理した。
- 個別テーマミーティング実施後、厚生労働省から共通算定モジュール導入効果や薬局分野におけるDXの全体像に関する意見伺いがあり、調剤システム委員会幹部メンバーにて分担し、厚生労働省への回答資料を作成した。特に、共通算定モジュール機能に加えて必要となる機能や、調剤特有となる計算内容については、幹部メンバー内で役割分担を行い資料を整理した。また、厚生労働省に提出する前に調剤システム委員会幹部メンバー内で事前にレビューを行う等、苦心しながら資料をまとめ厚生労働省に意見具申を行う事ができた。

その結果、医科と調剤では共通算定モジュールに必要となる機能に違いがある事を認識頂く事ができ、当初は「薬局に係る診療報酬改定DX」と整理されていた厚生労働省の資料が「薬局分野の調剤報酬改定DX」という言葉が用いられるようになり、調剤システム委員会から提示した意見の結果を意識頂けるようになった。

- 意見交換の結果、医科と同じ仕組みではなく、「調剤行為コードのみではなく、調剤情報も共通算定モジュールに送信して調剤報酬を計算する方式」の実現可否や、それによる負担軽減効果・費用対効果については重要論点として、令和8年度の報酬改定内容も踏まえながら、薬局の共通算定モジュールの検討を引き続き進める事となり、薬局分野の調剤報酬改定DXの実現に向け、JAHISのプレゼンス向上へ大きく貢献できたと考える。

受賞コメント：

この度は、JAHIS功績賞という栄えある賞をいただき、身の引き締まる思いと同時に、大変光栄に感じております。

まずは、日頃より当委員会の活動を支え、導いてくださる関係諸兄姉に心より御礼申し上げます。

今回の受賞理由となりました「薬局分野の診療報酬改定DXに係る意見具申」は、私個人ではなく、調剤システム委員会の幹部メンバーが一丸となり、それぞれの知見と情熱を持ち寄ることで成し得たものです。この場をお借りして、共に活動いただきました全ての皆様に深く感謝いたします。

活動におきましては、厚生労働省様が推進する「診療報酬改定DX」に対し、薬局様の現場における業務運用や、我々調剤システムベンダーの開発現状を丁寧にお伝えすることに注力いたしました。単なる意見表明に留まらず、より良い仕組みづくりに向けて国と深く建設的なディスカッションを行えたことは、委員会としても非常に大きな財産となりました。

現在も医療・薬局を取り巻くDXの波は加速しております。今回の受賞を大きな糧とし、今後も調剤システム委員会一同、日本の保健医療福祉情報システムの発展、そしてJAHISの活動に一層貢献できるよう、邁進してまいります。

功績賞 医療システム部会 JAHIS技術文書25-101 「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド (輸血編)Ver. 2.3」の改定等	患者安全ガイド専門委員会 患者安全ガイド輸血編 WGリーダー (オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス㈱) てん ま かず ひろ 天満 一宏 
--	--

受賞理由：

- リーダーシップによる技術文書の改訂
WGリーダーとしてメンバーを牽引し、2025年10月にJAHIS技術文書『JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（輸血編）Ver. 2.3』として改版した。
- 日本輸血・細胞治療学会との連携・調整
日本輸血・細胞治療学会との調整役を担い、現場視点を取り入れたガイドの充実化と、学会との橋渡し役

として、JAHISが信頼されるパートナーとしての関係を築くことに貢献した。

3. 日本輸血・細胞治療学会学術総会での発信による相互理解

第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会サテライトセミナー「病院情報システム」（5月30日）に登壇。医療従事者へ直接JAHISの活動を周知し、輸血医療の安全と標準化に向けた歩み寄りを促進した。

天満 一宏さんのコメント：

この度は第16期定時社員総会において功績賞をいただき、誠にありがとうございます。

長年にわたるWGメンバーの多大なご協力があるからこそその表彰であり、メンバー並びに関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

JAHIS技術文書「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（輸血編）」は、2015年11月の初版発行から10年が経ちました。最新版のVer. 2. 3では、初版から改訂されていない箇所の総点検を行い、時代に沿った記載内容へと刷新いたしました。

本技術文書をまとめるに当たり、日本輸血・細胞治療学会の委員会にJAHIS委員として参画し、諸先生方との議論を重ねたこと、またWG活動を通じて異なる立場のメンバーと多様な視点を取り入れたガイドづくりができたことは、私自身にとっても非常に貴重な経験となりました。

また、今般公表された厚生労働行政推進調査事業の研究成果である「輸血療法実践ガイド」において、検体照合や履歴管理、誤投与防止の観点から、本技術文書に準じたシステム化が推奨される旨が明記されました。本技術文書が医療機関の方々に広く理解され、安全な医療情報システムの構築運用に寄与することで、結果として医療事故やインシデントの撲滅につながれば幸いです。

奨励賞 医療システム部会	看護業務支援専門委員会 委員 (日本事務器㈱) ますやま ゆうき 増山 裕紀 
看護業務支援専門委員会への貢献	

受賞理由：

- ・2024年9月より、看護業務支援専門委員会に新規加入した。
- ・毎回欠かさず参加し、積極的な発言で議論を牽引しており、委員会への高い貢献度が認められる。
- ・医療機関での勤務経験と現在の電子カルテベンダーの職務経験から医療現場とシステム開発、双方の知見を委員会内で広めている。
- ・開発側の視点に偏らず、実際の医療現場の運用や課題に即した実用的かつ多角的な意見を継続して発信している。

これらの活動を通じて、当委員会の活動および看護業務支援の発展に大きく貢献しており、本賞に誠にふさわしいと考えた。

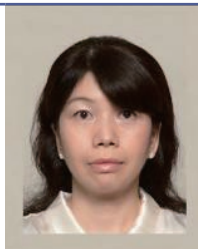
増山 裕紀さんのコメント：

この度は、2025年度定時社員総会におきまして、奨励賞という大変光栄な賞を賜り、誠にありがとうございます。

2024年9月に設立された当委員会へ初回から参加させていただき、看護業務を支援する各社製品・運用事例に関する情報共有や勉強会等を通じて、多くの学びを得てまいりました。医療機関での勤務経験と、現在の医療情報システムに携わる双方の立場から、看護業務における現場の課題や、システム開発・運用面での課題を委員会内で共有し、議論に参加できたことは、自身にとっても大変貴重な経験となりました。

医療現場を取り巻く環境では、様々な最先端技術の活用が始まりつつあります。看護業務の効率化や質の確保に向けて「医療現場に本当に求められる支援とは何か」を追求し、実現していくためには、JAHIS活動を通じた標準化の検討や、会員企業・関係団体の皆様との意見交換が非常に重要であると実感しております。

今回の受賞を励みに、今後も委員会活動を通して、看護業務の効率化および医療の質の確保に寄与できるよう、一層精進してまいります。

奨励賞 医療システム部会	看護業務支援専門委員会・ 看護情報WG 委員 (NECソリューションイノベータ㈱) おくだ まなみ 奥田 真奈美 
看護情報WG活動及び対外活動への貢献	

受賞理由：

2024年11月に看護業務支援専門委員会・看護情報WGに新規加入後、

- ・看護情報WGの「看護データセット適用ガイド」改版に途中より参加し、対象の技術文書および「ePath適用ガイド」を読込み、不明点はWGにて確認して、改版のための作業に意欲的に取り組んでいる。
- ・第26回 日本医療情報学会看護学術大会では、JAHIS派遣の実行委員のサポートをおこない、学会との協同に貢献した。
- ・MEDIS看護実践用語標準マスタのシステム利用において、業務経験をもとに看護師に寄り添った視点で新たな分類を提案し、9,500件を超えるマスタのシステム導入の障壁解消に尽力している。

奥田 真奈美さんのコメント：

この度は奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。

今回の受賞は、看護情報WGでの活動を通じて、多くの皆様に支えていただいたおかげであり、心より感謝申し上げます。

看護情報WGでは、MEDIS看護実践用語標準マスタや看護データセット適用ガイドに関する検討、ePathとの整合性確認など、看護情報の標準化に向けた活動に携わってまいりました。

様々な背景を持つWGメンバーの皆様と議論を重ねる中で、これまで業務を通じて考えていた「標準化」とは異なる新たな視点を得ることができました。標準化そのものだけでなく、その先にあるデータ利活用や医療の質向上の可能性についても、多くの学びを得る機会となり、私にとって大変貴重な経験となりました。

また、活動や関係者の皆様との情報交換を通じて、標準化を進めていくうえでは技術面だけでなく、その意義やメリットを分かりやすくお伝えし、関係者の理解を深めていくことが大切であると感じております。

今後も、看護情報の標準化とデータ利活用の推進を通じて、医療DXや保健医療福祉分野の発展に、微力

ながら貢献していければと考えております。

最後になりますが、日頃よりご指導、ご支援をいただいている看護情報WGの皆様ならびに関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会 JED用語集のLOINCコード取得	部門システム委員会 内視鏡部門システム専門委員会 専門委員長 (オリンパスメディカルシステムズ(株)) おざき たかし 尾崎 孝史 
委員 (富士フイルム(株)) たつ た たけいち 龍田 岳一 	委員 (日本電気(株)) だんばら かずゆき 檀原 一之 

受賞理由：

1. JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約 Ver. 1. 0 (JAHIS標準21-002) に採用した、消化器内視鏡検査および診断に関する用語集「JED用語集」(日本消化器内視鏡学会 JED-Project) のうち、本標準で参照する用語について、国際コード体系の一つである LOINC にコード取得申請を行い、2026年2月24日リリースの LOINC Ver. 2. 82に正式登録された。登録されたLOINCコードは約230、Answer IDコード&Answer Listは約2, 000にのぼる。
2. 消化器内視鏡分野においてこれまで広く普及している国際コードは存在していなかった。国際的な用語集としてはMST (Minimal Standard Terminology) が存在するが、日本のJEDほど詳細に記述できるものではなく、内視鏡検査結果を用いた研究を一層進化/深化させるにはJED用語集が適している。内視鏡先進国である日本発で国際化していくことは有意義であり、今回の登録によって将来、国内標準と国際標準の整合性確保やJED用語集の普及に大きく寄与できると考える。
3. LOINC事務局 (Regenstrief Institute) への申請に際しては、JAHISに先行事例がなかったため、医療システム部会、国際標準化委員会、標準化推進部会などの協力を得て、JAHIS規程と不整合にならないよう手続きを進め、日本HL7協会に協力を依頼し、HL7協会のサポートのもとでコード取得を実現した。本活動は、着手から約3年半、HL7協会経由で申請が受理されてから丸3年を要した長期の取り組みである。当初、受理時には「平均約110日で登録される」との回答を得ていたものの、その後の進捗は停滞し、先方の状況に配慮しつつ丁寧なリマインドと状況確認を継続した。また、「申請内容を最大50件に分割してほしい」「内容分析のため複数の検査レポートを送付してほしい」など、先方から寄せられた追加要請にも迅速に対応した。さらに、担当者の交代や既存コード再整理のタイミングと重なるなど想定外の状況も発生したが、日本HL7協会 岡田美保子先生のご尽力・支援にも助けられ、最終的にLOINCコード登録という大きな成果を達成することができた。

尾崎 孝史さんのコメント：

このたびは、第16期定時社員総会におきまして、2025年度の「功績賞（連名）」を賜り、誠にありがとうございました。今回、JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約に採用したJED用語集のLOINCコード取得にあたり、ご協力いただきました臨床の先生方ならびにJAHIS内外の関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

LOINCは、臨床検査や医療観察項目を標準化して識別するための国際的なコード体系の一つで、世界中で広く利用されています。これまで消化器内視鏡分野には広く普及した国際コードは存在していませんでした。

LOINCへの申請は、JAHISに先行事例がなく、また今回はLOINCコードに加えてAnswer IDおよびAnswer Listの申請も必要であったため、多大な時間と労力を要しました。根気強く対応した結果、最終的に約230件のLOINCコードと、約2,000件にのぼるAnswer IDおよびAnswer Listを登録いただくことができました。

本活動は、内視鏡先進国である日本から国際化を推進する有意義な標準化の取り組みであり、今回の成果は今後の内視鏡学の発展にも寄与するものと考えております。

今後も関係各位のご指導ご支援を賜りながら、内視鏡分野の標準化の普及・拡大に貢献できるよう取り組んでゆく所存です。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

龍田 岳一さんのコメント：

このたびJED用語のLOINC化の活動に対し、JAHIS「功績賞（連名）」を賜り、誠にありがとうございました。

内視鏡部門システム専門委員会では、2021年に「JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約」を制定しました。日本消化器内視鏡学会の「JED用語集」を取り込んだものの、当時は暫定的にJAHISで採番せざるを得ず、国際的に通用する共通コードの取得は課題となっていました。このたび、ようやくLOINCコードとして正式に収載されるに至りました。

膨大な規模の用語集の整理・確認などの技術的作業をともに粘り強く進めてきた内視鏡部門システム専門委員会の作業メンバー各位に、まず心より御礼申し上げます。また、JAHIS内での手続きや、日本の窓口となる日本HL7協会を介した申請、申請後の各種対応など、各段階においてJAHIS内外の多くの方々にご協力を賜りましたことにつき、関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。

なお、本年より専門委員長は尾崎氏へ引き継ぎました。標準化活動は今後さらに力強く推進されるものと確信しております。引き続き、皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

檀原 一之さんのコメント：

このたびは、功績賞という荣誉ある表彰を賜り、大変光栄に存じます。

本活動は、JAHISにおいて前例のない取り組みであり、社内外の多くの関係者のご協力なくしては実現できないものでした。

特に、LOINC事務局とのやり取りが停滞していた時期の、岡田美保子先生の多大なるご尽力に深く感謝申し上げます。

LOINCコード取得までに、想定を超える期間と困難を伴いましたが、関係各位と粘り強く連携し、着実に課

題を解決していくことの重要性を改めて実感いたしました。

また、海外標準化団体とのコミュニケーションにおいては、相手の状況を尊重しつつ継続的に働きかける姿勢が成果につながることを学びました。

今後は、本成果を起点として、医療情報の標準化・国際連携のさらなる推進に貢献するとともに、後進の方々にとって有用な知見として還元してまいりたいと考えております。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準 25-001「JAHISヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約 Ver.2.2」の改定等	セキュリティ委員会 監査証跡WGリーダー (株)島津製作所 にしだ しんいちろう 西田 慎一郎 
---	--

受賞理由：

1. 件名の改定作業を完遂し出版した。
2. 監査証跡 WGリーダーとして適切な会議運営を実施し、円滑な活動を主導した。
3. 改定されたJAHIS標準をベースとしてISO27789（EHRの監査証跡）の改定についてPLとして主体的に関与し、DIS投票にむけた作業を実施した。
4. ISO/TS11633-1（リモートサービスセキュリティ）の改定作業においてPLとしてCDを作成した。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準 25-003「リモートサービス セキュリティガイドライン Ver.5.0」の改定等	セキュリティ委員会 JAHIS/JIRA合同リモートサービス セキュリティWGリーダー (サイバートラスト(株)) まつもと よしかず 松本 義和 
--	--

受賞理由：

1. 件名の改定作業を完遂し出版した。
2. RSS-WGリーダーとして三つのJAHIS標準類の改定にあたり、適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。
3. ISO/TS11633-1（リモートサービスセキュリティ）の改定作業においてPLと連携してCD作成に協力した。

松本 義和さんのコメント：

この度は2025年度の功績賞をいただき、誠にありがとうございます。JAHIS標準「リモートサービスセキュリティガイドライン Ver. 5. 0」の作成に関わるWGメンバーの多大なご協力があったの表彰であり、2期連続の受賞にあたりWGメンバー並びに関係者に深く感謝申し上げます。

最新の Ver. 5. 0では「リモートサービスのライフサイクルにおける義務と責務」というパラグラフを追加い

たしました。医療機関等へ適切な情報提供をSLAやSDSで行うことの重要性や、医療機関との合意形成における情報セキュリティ上の留意点をまとめています。

これまでに本ガイドラインは、医療システム等に対するリスクアセスメントの手法を解説していることから、審査支払基金、医政局、消防庁など多くの機関で活用いただいております。また、最新の安全管理ガイドラインでも参照ドキュメントとしてポイントされました。これからも引き続き、リモートサービスの不備に起因するセキュリティ事故を根絶するためにも、このJAHIS標準の普及・啓発活動に努めていく所存です。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 病名情報メッセージ交換標準化WG リーダ (日本アイ・ビー・エム(株)) きむら まさひこ 木村 雅彦 			
病名情報データ交換規約Ver.3.2Cの制定	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 ((株)ソフトウェア・サービス) にしぐち たかゆき 西口 貴之	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 ((株)ソフトウェア・サービス) にしむら としあき 西村 俊亮	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 (日本電気(株)) こまい まさひろ 駒井 理弘	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 (日本電気(株)) いのうえ まゆみ 井上 真由美

受賞理由：

病名情報データ交換規約 Ver.3.2Cを制定した。

このJAHISデータ交換規約は、参考情報ではあるものの、FHIRを使用した各種診療データの照会について解説した初めてのJAHIS標準類であり、今後のデータ交換規約の方向性を示す記念となるものである。

木村 雅彦さんのコメント：

この度は、「JAHIS病名情報データ交換規約 Ver.3.2C」の策定において、功績賞グループ表彰を賜りまして誠にありがとうございました。WGメンバーを代表して御礼申し上げます。

今回の改版では、HL7 FHIRなどの国内外の標準化の流れやJAHISデータ交換規約全体での最近の取り組みを踏まえ、JAHISデータ交換規約（共通編）の最新版（Ver.1.3）の参照、日本HL7協会から公開されているHL7 V2.5日本語訳見直し版に沿った日本語訳の見直し、コード表へのOIDの付番、適合性宣言書の採用のほか、付録での参考情報ではありますが、JAHISデータ交換規約において初めてHL7 FHIRにより患者基本情報、感染症、血液型、アレルギー、入退院歴、受診歴、病名情報の照会を行う際の仕様案やメッセージ例等の記述を追加しました。また、今回新たなWGメンバーを迎え、一緒にデータ交換規約の策定作業を経験することにより、若い世代への標準類策定のスキルと経験の伝承が少しは行えたのかなと自負しております。最後に、今回の表彰は、WGメンバー全員の努力の賜物に他なりません。この場をお借りして深く感謝申し上げます。今後ともJAHIS活動に積極的に関わり、医療情報の標準化と普及推進に貢献する所存です。

奨励賞 標準化推進部会	普及推進委員会 委員 (富士通Japan(株)) おかだ はるな 岡田 春奈
教育事業の講師対応および 標準類オーバービューチャートのアップデート作業 への貢献	

受賞理由：

1. JAHIS教育事業「医療情報システム入門コース」の講師対応
普及推進委員会にて対応を行っている「医療情報システムの標準化について」の单元において、教材の整備・作成および講師を担当し、JAHIS教育事業に貢献、人材育成に寄与した。
2. 標準類オーバービューチャート（OVC）のアップデート作業への貢献
普及推進委員会の重点活動領域であるOVCのアップデートにおいて、厚労省標準およびJAHIS標準類の改定内容の確認を行うとともに、新たな標準類のOVCへの反映を検討するにあたっての各標準類へのマッピング、デザイン検討を率先して実行した。（OVCのアップデート版は2026年5月に公開）
これらの活動は、普及推進委員会の活動・成果に大きく貢献するものである。

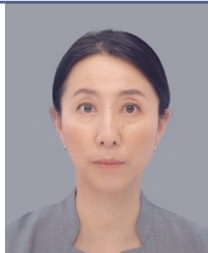
岡田 春奈さんのコメント：

このたびはこのような賞を賜り、大変光栄に存じます。

本取組は、委員会の皆様をはじめ多くの方々のご支援によるものと深く感謝しております。参加当初は右も左も分からない状態でしたが、皆様のご指導のもと取り組むことができました。

担当させていただいた「医療情報システムの標準化について」の講義が、医療業界の抱える課題や標準化の重要性に対する理解を深めていただく一助となっていれば幸いです。

また、アップデートされたOVCが広く活用されることを期待しております。

奨励賞 標準化推進部会	国際標準化委員会 委員 (大日本印刷(株)) たていし きよこ 立石 貴代子 
JAHIS国際活動活性化への貢献 (DICOM,RSNAへの積極的な参画と情報共有)	

受賞理由：

2025年4月に国際標準化委員会委員として登録後、1年足らずの短期間で国際標準化活動の最前線に立ち、JAHISの国際的プレゼンス向上に大きく貢献した。具体的には、以下の国際会議に参画し、対面・オンラインを問わず継続的な活動を行い、報告書を発行して情報共有を行った。

2025年5月：DICOM Standard Committee (DSC) イタリア・ベローナ（対面参加）,2025年9月：DSC マレーシア・クアラルンプール（Web参加）,2025年11月：RSNA、DSC 米国・シカゴ（対面参加）,2026年3月：DSC チェコ・プラハ（対面参加）

これらの活動を通じ、国際議論の場において日本およびJAHISの立場を的確に発信し、存在感を示した。

また、DICOM活動においては、CPack131, 132, 133, 134, 135, Supplement246, 247, 249といった重要案件について、JAHIS内の意見集約を主導し、関連団体との調整を行ったうえで国際投票に反映させるなど、実務面でも中心的役割を果たした。

国際標準化活動開始から3年以内という奨励賞の趣旨に合致し、短期間で成果を示した点、ならびに今後の継続的な国際貢献が強く期待される人材であることから、本奨励賞にふさわしいと考える。

立石 貴代子さんのコメント：

この度は、奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。

国際標準化委員会の活動に参加してまだ日が浅い中、このような評価をいただき、大変光栄に存じます。

今回の受賞は、DICOM WGの皆様とともに取り組んできた活動を評価していただいたものと受け止めております。

国際標準化活動に取り組むにあたり、国際標準化委員会には国際会議への参加機会をはじめ、活動を支える環境を整えていただきました。また、DICOMの標準化活動は、多くのメンバーの知識や経験、そして継続的な協力によって支えられています。私自身も、WGメンバーの皆様から多くの助言やご協力をいただきながら活動を進めることができました。国際会議への参加や国際投票への対応など、日々の活動を積み重ねることができたのも、委員会およびWGメンバーの皆様の支えがあったからこそだと感じております。

今回の表彰は、そのような皆様とともに積み重ねてきた活動の成果として受け止めております。この場をお借りして、国際標準化委員会ならびにDICOM WGの皆様にご心より感謝申し上げます。

今後も国際標準化活動を通じて、JAHISおよび医療情報分野の発展に微力ながら貢献できるよう努めてまいります。

この度は誠にありがとうございました。

功績賞	保健福祉システム部会	健康支援システム委員会 委員長 WGリーダー (株)NTTデータ 井上 裕之	
健康診断結果報告書規格Ver.3.0の制定		健康支援システム委員会 副委員長 (オムロンヘルスケア(株)) かづま ひろゆき 鹿妻 洋之 健康支援システム委員会 委員 (日本事務器(株)) たつざわ けんじ 立沢 研二	

受賞理由：

1. JAHIS-日本HL7協会合同健康診断結果報告書規格WGにおいて改訂作業を行い、2026年3月に「健康診断結果報告書規格Ver.3.0」を制定した。改訂に際しては、国が定めた第4期特定健診の「特定健診・特定保健指導の電子的なデータ標準様式Version4」における変更点の反映を行い、最新の制度で実施される特定健診への対応を行った。

2. 本規格は日本医療情報学会が定める「健康診断結果報告書HL7FHIR記述仕様」においても本規格を参考にしてFHIRに準拠した記述仕様を作成したとされており、国内の健康診断結果報告様式の標準化において、本規格の適切なメンテナンスは有意義な活動となる。
3. 改訂作業は日本HL7協会との合同WGで実施した。JAHISが中心となって双方の意見の取りまとめを行い、円滑にWG運営を行いつつ、適切な改訂を行った。

井上 裕之さんのコメント：

この度は、定時社員総会におきまして功績賞を賜り、誠にありがとうございます。日頃よりご協力いただいております委員会の皆様、ならびに選考に携わられた皆様に、心より御礼申し上げます。

今回は、日本HL7協会との合同WGにおいて、「健康診断結果報告書規格 Ver.3.0」の改訂に携わりました。本規格は、厚生労働省が定める「特定健診情報ファイル仕様」をベースに、HL7 CDAに基づく表現拡張やコード体系の再定義を行うことで、人間ドックや特殊健診を含む幅広い健康診断に対応した標準仕様です。今回の改訂を通じて、国内における健康診断結果報告様式の標準化に微力ながら貢献できたことを、大変光栄に思っております。

また、本規格は「健康診断結果報告書 HL7 FHIR記述仕様」の策定においても参考とされており、こうした標準化活動が医療情報連携のさらなる発展につながることを期待しております。

今後も、微力ではございますが、業界の発展と標準化の推進に貢献できるよう努めてまいります。引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

功績賞	事業推進部	事業企画委員会 委員長 (キヤノンメディカルシステムズ(株)) き ど す み こ 木戸 須美子	
書籍『医療情報システム入門』の改訂・販売促進		事業企画委員会 副委員長 (コニカミノルタ(株)) お が わ ゆ う だ い 小川 雄代	

受賞理由：

1. 3年ぶりのJAHIS書籍「医療情報システム入門」の改訂（前版は2023年2月24日発刊）において、執筆者である各委員会の方々との調整、出版元である社会保険研究所との調整、親しみやすい表紙デザインの検討、出版に向けた最終チェックを行い、「医療情報システム入門第8版（以下、書籍8版）」を2026年1月16日に発刊した。

書籍8版の巻頭言はJAMI代表理事の横井先生に執筆頂いた。発刊後は、厚労省幹部等への献本を行

い高い評価を得ている。書籍8版の発行を通じて、関連省庁や学会に対するJAHISのプレゼンス向上に貢献した。

2. 前版である「医療情報システム入門2023（以下、書籍2023）」は、積極的なプロモーション活動（学会・展示会でのPR、入門コース副読本化、教育機関向けDM発送等）により、実売 5,180部 を達成した（前々版は、4,093部）。

書籍2023は、大学等より学生向けに一括購入して頂いた。また某地区の医療情報技師会では、医療情報技師を受検する方へ、JAMIテキストの副読本として推奨している。病院の情報システム部門の管理職が、入職した職員に購入を勧めている施設がある。書籍2023は、JAHIS会員企業等のベンダの枠を超え、学生や医療機関の若手職員に対するJAHIS認知度向上に寄与した。

受賞者連名のコメント：

この度は、功績賞を賜り、誠にありがとうございました。今回の表彰は、事業企画委員会で取り組んでまいりましたJAHIS書籍『医療情報システム入門』の約3年ぶりとなる改訂版『第8版』（2026年1月16日発刊）の刊行ならびに販売促進活動をご評価いただいたものと受け止めております。本書籍の各単元をご執筆いただいた関係委員会の皆さま、また日頃より活動を支援してくださっている事務局の皆さまに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

書籍の発刊に向けては、2025年3月より出版元である（株）社会保険研究所の皆さまと定期的に検討会を重ねてまいりました。特に表紙デザインについては、初版からの変遷を振り返りながら、改訂版として「わかりやすさ」と「親しみやすさ」を兼ね備えたデザインを検討しました。また、プロモーション活動としては、2026年1月のJAHIS賀詞交換会においてポスターやチラシを作成し、「最新刊」として積極的なPRを行いました。

本書籍は累計販売部数2万冊を超え、医療情報システムを学ぶ教育機関においても教材として採用いただいております。今年度もさまざまな機会を通じて本書籍のプロモーションを行い、より多くの方々にJAHISの名前と共に書籍の価値を知っていただけるよう努めてまいります。

運営会議状況報告

2025年度 第10回運営会議議事録

<日時>：2026年1月20日（火）15:00～17:10

<場所>：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- (1) 厚生労働省「レセコンの標準化に係る方針の確認会」への委員派遣の件
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏の委員派遣が承認された
- (2) 一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会タスクフォース合同会議（病院情報システム小委員会、患者安全ガイド策定チーム、トレーサビリティチーム、マスタ標準化作業部会）への派遣委員変更の件
医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 患者安全ガイド輸血編WG 竹内智寛氏を委員派遣することが承認された
- (3) 一般社団法人医療安全全国共同行動患者安全行動計画部会への委員派遣の件
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏の委員派遣が承認された

2. 2025年度第2回定例理事会について

2025年度第2回定例理事会における議案・資料が承認された

2025年度 第11回運営会議議事録

<日時>：2026年2月17日（火）15:00～17:33

<場所>：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

東京科学大学 BRIDGE事業 我が国における今後の国際標準獲得推進（医療機器分野）を担う人材育成推進事業報告書作成の件
構成員総数39名中37名の賛成により、標準化推進部会 国際標準化委員会 委員長 岡田真一氏の報告書執筆について承認された

2. 対外活動申請

- (1) HELICS チュートリアル「HELICS 協議会の参加団体での標準化の取組の現状と今後」へのパネリスト派遣の件
標準化推進部会 副部会長 光城元博氏の演者派遣について承認された
- (2) ISO/TC215/SC2国内委員会への委員派遣の件
標準化推進部会 国際標準化委員会 委員長 岡田真一氏の委員派遣について承認された
- (3) 第28回日本医薬品情報学会総会・学術大会 シンポジウムへの登壇の件
医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長 太田聡司氏の演者派遣について承認された

(4) 総務省「健診等情報利活用ワーキンググループ 民間利活用作業班」への委員派遣の件

保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 井上裕之氏の委員派遣について承認された

3. 2026年度特別委員委嘱

以下の各部会からの特別委員委嘱願いについて承認された

(1) 戦略企画部

西原栄太郎氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）

(2) 標準会推進部会

喜多紘一氏（安全性・品質企画委員会）

中里俊章氏（国際標準化委員会）

松元恒一郎氏（国際標準化委員会および安全性・品質企画委員会）

平井正明氏（国際標準化委員会および安全性・品質企画委員会）

谷内田益義氏（国際標準化委員会）

(3) 医療システム部会

鈴木昭俊氏（部門システム委員会 病理・臨床細胞部門システム専門委員会
相互運用性委員会 DICOM WG）

香坂浩之氏（部門システム委員会 放射線治療 WG 相互運用性委員会 DICOM WG）

藤咲喜丈氏（部門システム委員会 放射線治療 WG 相互運用性委員会
検査レポート検討 WG）

石黒厚至氏（部門システム委員会 外注検査データ交換ガイド作成 WG）

喜多紘一氏（セキュリティ委員会）

平田泰三氏（セキュリティ委員会）

宮崎一哉氏（セキュリティ委員会）

谷内田益義氏（セキュリティ委員会）

松元恒一郎（セキュリティ委員会）

(4) 保健福祉システム部会

西原栄太郎氏（健康支援システム委員会）

4. 事業企画推進室長選考結果の件

茗原秀幸氏の事業企画推進室長委嘱について承認された（2026年9月1日より就任）

なお、2026年4月1日～8月31日までは副室長として勤務

5. HELICS事務局の継続雇用について

HELICS事務局関連業務の継続担当のため、谷口浩一氏と2026年度の雇用契約を行なうことが承認された

6. 2026年度外部学識経験者への国際標準化活動参加依頼の件
下記3名の外部学識経験者の国際標準化活動への参加が承認された
川崎医療福祉大学 木村通男先生
九州大学 中島直樹先生
一般社団法人医療データ活用基盤整備機構 岡田美保子先生
7. 2026年度国際標準化団体への派遣者リストの件
2026年度国際標準化団体への派遣者リストの内容について承認された
8. 会員への周知依頼に関する運用ルールの見直しの件
周知の際に審議不要とする対象団体を追加し、内容が適切か確認する運用を明記することについて承認された

2025年度 第12回運営会議議事録

<日時>：2026年3月17日（火）15:02～17:29

<場所>：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請
(1) 保健・医療・福祉情報セキュアネットワーク基盤普及促進コンソーシアム（HEASNET）企画委員会/技術委員会/運営検討WGへの参加の件
茗原秀幸氏の事業企画推進室 副室長への4月就任を条件として委員派遣について承認された
2. 2026年度予算計画の暫定承認の件
2026年度の予算計画について説明がされ暫定承認がされた
3. 総務会長・運営幹事退任及び後任選出の件
総務会長 下山赤城氏の辞任と後任として榎本康之氏の選任、ならびに総務会運営幹事 下山赤城氏の辞任と後任として藤井聡氏の選任について承認された
4. 新規総務会委員の指名の件
下坪信夫氏、および渡壁廣之氏の総務委員選出について承認された
5. キヤノングループ事業再編に伴う選任手続きについて
以下の各組織における選任結果について承認された
(戦略企画部、総務会、標準化推進部会、医療システム部会、事業推進部)

2026年度 第1回運営会議議事録

<日時>：2026年4月21日（火）15:01～17:54

<場所>：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請
(1) 厚生労働省 医療機関・薬局間における情報の共有・標準化等に関する検討会の件
事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏の検討会参加について承認された

- (2) 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）社会活動部会 医療IT WG へのオブザーバ参加の件
事業企画推進室 副室長 茗原秀幸氏のオブザーバ参加について承認された
- (3) 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）患者向医薬品ガイド検討会への委員派遣の件
事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏の委員派遣について承認された
- (4) 一般財団法人医療情報システム開発センター「歯科分野の標準化委員会」への委員派遣の件
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏の委員派遣について承認された
- (5) 一般財団法人医療情報システム開発センター「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」への委員派遣の件
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏の委員派遣について承認された
- (6) 独立行政法人福祉医療機構「WAM NET 事業推進専門委員会」への委員派遣の件
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏の委員派遣について承認された
- 2. 2026年度第1回定例理事会の議案等について
2026年度第1回定例理事会の議案・資料について確認し、承認された
- 3. 2025年度特別委員委嘱願いについて（医療システム部会）
松元恒一郎氏のセキュリティ委員会 特別委員委嘱について承認された
- 4. 2025年度表彰者選考の件
下記のとおり、2025年度表彰者選考結果について承認された
個人表彰 9名、連名表彰 11名、グループ表彰 2グループ11名
- 5. 外国法人の入会、書面理事会向け資料について
外国法人の入会、書面理事会向け資料について承認された
- 6. 売上高調査システム改善について
売上高調査システムの改善・暫定予算執行について承認された
- 7. HP リニューアルプロジェクトについて
HP リニューアルプロジェクトの推進について承認された
- 8. 医療システム部会 部門システム委員会 外注検査データ交換ガイド作成WGおよび外注検査データ交換ガイド検討WGリーダー・サブリーダー互選の件
リーダー 松本宙大氏、サブリーダー 川田剛氏の互選について承認された

2026年度 第2回運営会議議事録

<日時>：2026年5月20日（水）14:15～15:48

<場所>：富士通テクノロジーパーク 大会議室24

1. 対外活動申請

(1) NeXEHRs POC部会の活動者変更について

戦略企画部長の交替に伴い、富田茂氏を活動者として登録することについて承認された

- (2) (株)創和ビジネス・マシンズ「SBM総合ソリューションフェア2026」講演依頼の件
事業企画推進室室長 小林俊夫氏の講師派遣について承認された
 - (3) 一般財団法人医療情報システム開発センター「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」への委員委嘱について
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 佐藤孝昭氏の委員派遣について承認された
 - (4) 一般財団法人医療情報システム開発センター「歯科分野の標準化委員会」への委員委嘱の件
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 佐藤孝昭氏、および副委員長 小森一秀氏の委員派遣について承認された
 - (5) 一般財団法人医療情報システム開発センター「看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォース」への委員委嘱の件
下記の各メンバーの委員委嘱について承認された
医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 専門委員長 木戸須美子氏
医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 看護情報WG リーダ 汐崎弘子氏
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員 奥田真奈美氏
 - (6) デジタル庁「基幹業務システムの統一・標準化推進のための事業者審議会」へのオブザーバ派遣の件
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏の委員派遣について承認された
2. 2026年6月以降のJAHIS運営体制の件
JAHIS運営体制について承認された
3. 電磁的方法を用いた採決等に関する規則の改訂の件
JAHIS規則100~106号について承認された
なお、電磁的方法による採決等に用いることができる手段は、以下のいずれかとする事となった
- ①JAHISの電子投票システム
 - ②電子メール
- (JAHISで管理しているメーリングリストを使用。使用しない場合には、担当の事務局部長を宛先に含めることとする)
- 将来的に新たな手段が必要となった場合などには、見直しを行う
4. 特別委員委嘱承認願（部門システム委員会）の件
藤咲喜丈氏の特別委員委嘱契約について内容追加を行うことが承認された

2026年度 第3回運営会議議事録

<日時>：2026年6月16日（火）15:00～17:19

<場所>：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- (1) 厚生労働省「令和8年度労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業」における普及促進活動検証委員会への委員派遣
医事コンピュータ部長 前田利勝氏及び戦略企画部長 富田茂氏の委員派遣について承認された
- (2) 厚生労働省「令和8年度 医療機能情報提供制度・薬局機能情報提供制度 全国統一システムの運用・保守・改修に係るプロジェクト管理支援業務」検討委員会への委員派遣の件
戦略企画部運営幹事 中光 敬氏の委員派遣について承認された
- (3) 国際標準化団体への派遣者リスト追加の件
医療システム部会 相互運用性委員会 DICOM WG リーダ 立石貴代子氏の「国際標準化団体への派遣者リスト」への追加について承認された
- (4) 「歯科電子カルテシステムの仕様の検討及び普及に向けた調査研究事業」への委員派遣の件
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 佐藤孝昭氏の委員派遣について承認された
- (5) 第46回医療情報学連合大会 JAHIS日本病院薬剤師会共同企画の件
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏の第46回医療情報学連合大会における共同企画への参加について承認された
- (6) 令和8年度厚生労働科学研究 研究分担課題「プロセスモデル策定と国際規格開発」国際標準開発WGへの委員派遣の件
医療システム部会 相互運用性委員会委員長 木村雅彦氏の委員派遣について承認された
- (7) 国保中央会「障害者総合支援事務処理システム検討会」への委員派遣（委員変更）の件
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 障害者総合支援WG 赤木寛孝氏、久原隆英氏への委員変更について承認された
- (8) 国保中央会「障害者総合支援法等審査事務研究会」への委員派遣の件
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏の委員派遣について承認された

対外活動に関する派遣、講演、寄稿等（2026年1月～2026年6月 申請承認）

【委員派遣等】

（登録番号）

1. 厚生労働省

（26-01-001）

レセコンの標準化に係る方針の確認会 委員

2026年2月6日

戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫

2. 一般社団法人日本輸血・細胞治療学会

（26-01-002）

日本輸血・細胞治療学会タスクフォース合同会議 委員

（病院情報システム小委員会、患者安全ガイド策定チーム、トレーサビリティチーム、
マスター標準化作業部会）

2026年1月20日～

医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会

患者安全ガイド輸血編WG 委員 竹内 智寛

3. 一般社団法人医療安全全国行動

（26-01-003）

患者安全行動計画部会 委員

2025年4月1日～2027年3月31日

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士

4. 一般社団法人医療データ活用基盤整備機構

（26-02-003）

ISO/TC215/SC2国内委員会 委員

2026年2月17日～2028年6月30日

標準化推進部会 国際標準化委員会 委員長 岡田 真一

5. EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社

（26-02-005）

総務省「健診等情報利活用ワーキンググループ民間利活用作業班」委員

2026年2月17日～2026年3月31日

保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 井上 裕之

6. 保健・医療・福祉情報セキュアネットワーク基盤普及促進コンソーシアム

（26-03-001）

企画委員会／技術委員会／運用検討WG委員

2026年4月1日～

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 茗原 秀幸

7. 厚生労働省 (26-04-001)

医薬局 総務課

医療機関・薬局間における情報の共有・標準化等に関する検討会 委員

2026年4月21日～2027年3月31日

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁

8. 特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会 (26-04-002)

日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) 社会活動部会 医療IT WG オブザーバ

2026年4月21日～2027年3月31日

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 茗原 秀幸

9. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (26-04-003)

PMDA患者向医薬品ガイド検討会 委員

2026年4月21日～2028年3月31日

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁

10. 一般財団法人医療情報システム開発センター (26-04-004)

歯科分野の標準化委員会 委員

2026年4月21日～2027年3月31日

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

11. 一般財団法人医療情報システム開発センター (26-04-005)

口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会 委員

2026年4月21日～2027年3月31日

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

12. 独立行政法人福祉医療機構 (26-04-006)

WAM NET事業推進専門委員会 委員

2026年4月21日～2028年3月31日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

13. NeXEHRSCONソーシアム

(26-05-001)

基本概念実現化部会 (POC部会)

2019年10月28日～2026年3月31日

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

2024年7月16日～2026年6月9日

戦略企画部 部長 山内 俊幸

2026年6月9日～

戦略企画部 部長 富田 茂

14. 一般財団法人医療情報システム開発センター

(26-05-003)

口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会 委員

2026年5月20日～2027年3月31日

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 佐藤 孝昭

15. 一般財団法人医療情報システム開発センター

(26-05-004)

歯科分野の標準化委員会 委員

2026年5月20日～2027年3月31日

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 佐藤 孝昭

同委員会 副委員長 小森 一秀

16. 一般財団法人医療情報システム開発センター

(26-05-005)

看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォース 委員

2026年5月20日～2027年3月31日

医療システム部会 電子カルテ委員会 看護業務支援専門委員会 専門委員長 木戸 須美子

同委員会 看護業務支援専門委員会 看護情報WG リーダ 汐崎 弘子

電子カルテ委員会 委員 奥田 真奈美

17. デジタル庁

(26-05-006)

デジタル社会共通機能グループ

基幹業務システムの統一・標準化推進のための事業者協議会 オブザーバ

2026年5月20日～2027年3月31日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

18. 株式会社シード・プランニング (26-06-001)

厚生労働省「令和8年度労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業」における
普及促進活動検証委員会 委員

2026年6月16日～2027年3月31日

戦略企画部 部長 富田 茂
医事コンピュータ部会 事務局 部長 前田 利勝

19. 株式会社三菱総合研究所 (26-06-002)

厚生労働省「令和8年度医療機能情報提供制度・薬局機能情報提供制度 全国統一システムの
運用・保守・改修に係るプロジェクト管理支援業務」検討委員会 委員

2026年6月16日～2027年3月31日

戦略企画部 運営幹事 中光 敬

20. 株式会社NTTデータ経営研究所 (26-06-003)

厚生労働省「歯科電子カルテシステムの仕様の検討および普及に向けた調査研究事業」
検証委員会 委員
歯科電子カルテ標準仕様WG 委員

2026年6月16日～2027年3月31日

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 佐藤 孝昭

21. 一般社団法人医療データ活用基盤整備機構 (IDIAL) (26-06-005)

令和8年度厚生労働科学研究 研究分担課題「プロセスモデル策定と国際規格開発」
国際標準開発WG 委員

2026年6月16日～2027年3月31日

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

22. 公益社団法人国民健康保険中央会 (26-06-006)

障害者総合支援事務処理システム検討会 委員

2025年4月1日～2026年6月16日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 障害者総合支援WG 委員 入江 徹
同 WG 委員 山下 隆二
2026年6月16日～
同 WG 委員 赤木 寛孝
同 WG 委員 久原 隆英

23. 公益社団法人国民健康保険中央会 (26-06-007)

障害者総合支援法等審査事務研究会 委員

2026年6月16日～2028年3月31日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

【講演・寄稿等】

1. 東京科学大学 医療イノベーション機構 (26-02-001)

BRIDGE事業

我が国における今後の国際標準獲得推進（医療機器分野）を担う人材育成推進事業報告書作成

2026年2月12日～2026年3月31日

標準化推進部会 国際標準化委員会 委員長 岡田 真一

2. 一般社団法人医療情報標準化推進協議会 (26-02-002)

第30回日本医療情報学会春季学術大会

HELICSチュートリアル「HELICS協議会の参加団体での標準化の取組の現状と今後」

パネリスト

2026年6月11日

標準化推進部会 副部会長 光城 元博

3. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (26-02-004)

第28回日本医薬品情報学会総会・学術大会

シンポジウム 登壇

2026年7月11日～2026年7月12日

医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長 太田 聡司

4. 株式会社創和ビジネス・マシズ (26-05-002)

「SBM総合ソリューションフェア」講演

2026年7月17日

戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫

5. 第46回医療情報学連合大会 JAHIS／日本病院薬剤師会共同企画 (26-06-004)

「健康情報の共有における病院薬剤部門の課題と期待 一病院情報システムにできることは一」

共同座長

2026年11月13日～11月15日いずれか

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

新規会員紹介

以下の書面理事会によって、新規会員の入会が承認されました。

第125回書面理事会：2026年3月13日開催

第1号議案 入会承認の件

(株)ソラリウム	F会員
ITF合同会社	F会員
ベストスキップ(株)	F会員

第126回書面理事会：2026年4月22日開催

第1号議案 入会承認の件

トレンサーテクノロジーソリューション	E会員
(株)ファティマ	F会員
中央コンピューターサービス(株)	E会員
TMBパートナーズ(株)	F会員
ユースタイルラボラトリー(株)	F会員

皆様から、会社概要やJAHISへの参加目的、活動する上でのJAHISに望むことなどについて、メッセージをいただきました。入会日順に掲載します。

キヤノン株式会社 (2026年4月1日入会)

〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2

TEL: 03-3758-2111

<https://global.canon/ja/>

このたびJAHISに参加いたしましたキヤノン株式会社です。当社は商業印刷、オフィス複合機、インクジェットプリンター、レーザープリンター、医療機器、半導体露光装置、民生・業務用カメラ／レンズ、ネットワークカメラなど多岐にわたる製品の研究開発・製造、販売を行っています。プリンティング、メディカル、イメージング、インダストリアルという4つの産業別グループの体制のもと、環境対応を加速しつつ、より快適で豊かな生活・ビジネス環境、安心・安全な社会を支えるイノベーションの創出に挑戦し続けています。

そのような中、本年4月にはメディカル事業を更に強化する目的でグループ内での組織再編を行い、子会社であるキヤノンメディカルシステムズ株式会社（CMSC）が営む事業のうち、日本国内の販売及びサービスを除く全てのメディカル事業を当社が承継いたしました。そのため、従来から参加していたCMSCに加え、今年度からキヤノン株式会社としても参加させていただきます。

キヤノンのメディカルグループでは、患者、医療従事者とともに歩むという思いを「Made for Life」とい

う事業スローガンに表し、医療・健康・福祉の広い分野で人々の健やかな生活の実現のために、豊かな価値を創造し、お客様に提供してきております。JAHISが目指す「データ循環型社会の実現」におきましても、生活者目線を忘れずに、標準化の推進、産官学連携に取り組み、データが最大限活用される社会の実現を目指して参りたいと思います。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

ITF合同会社 (2026年4月1日入会)

〒870-0156 大分県大分市高城新町4-9 (大分事業所)

TEL: 097-554-2207

<https://itfllc.co.jp/>

この度、当会に入会いたしましたITF合同会社と申します。

弊社は2014年の創業以来、様々な企業様からシステム開発を受託し技術力を培って参りました。

これまで、医療検査機器向けのシステム開発をはじめ、自社パッケージとして動物病院向け総合システム「パトラシリーズ」を全国に向け展開しております。更に本年2月には、介護保険制度開始時より続く介護ソフトブランド「ささえ愛シリーズ」を継承し、新たに介護ソフト分野に参入いたしました。サポートセンター・ヘルプデスクを中心に、システムのご提案・構築から運用まで幅広いサービスを全国のお客様にご提供しております。また、ネットワーク設計・導入、入退室管理システムの開発・導入や、監視カメラの導入から運用まで様々なニーズに対応して参りました。

この度の入会を通じて介護製品の更なる品質向上に努めて参りたいと考えております。

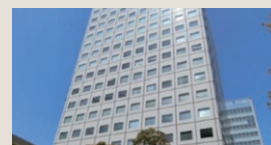
今後ともJAHIS様を通じて医療介護業界の発展に寄与できるよう努めて参ります。

ベストスキップ株式会社 (2026年4月1日入会)

〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビル8階

TEL: 03-5614-0358

<https://www.bestskip.com/>



価値創造への飽くなき挑戦

私たちについて

ベストスキップ株式会社は、2011年の設立以来、システム開発と自社サービスを両輪に事業を展開してきました。自社社員81名、ビジネスパートナーを含む技術者数は200名を超え(2026年4月現在)、多様な

人材と高度な技術力を生かして、お客さまに持続可能な価値を提供しています。

金融、社会インフラ、製造、ヘルスケア、自治体など幅広い分野で、業務分析・企画から要件定義、開発、導入、保守までをワンストップで支援します。クラウド、ローコード、AI等の先進技術にも対応し、プロジェクトの特性に応じて最適な開発手法を選択しています。

金融	産業・ヘルスケア	公共・自治体	社会インフラ
高信頼性システム	医療・製造・AI	標準化・クラウド	電力・交通

ヘルスケア分野では、健康管理アプリやAI画像解析、AIOCR等に取り組んでいます。今後も、医療・介護の現場知識とデジタル技術を結び付け、利用者と業務の双方に寄り添うサービスを創出してまいります。

JAHISへの参加目的と期待

医療・介護のデジタル化では、安全性、相互運用性、標準化を踏まえた持続可能な仕組みづくりが不可欠です。JAHISへの参加を通じて、標準規格やガイドラインへの理解を深め、会員の皆さまと実務に根差した知見を共有したいと考えています。AI、クラウド、システム基盤の設計・構築で培った経験を生かし、現場で安心して使い続けられる医療・介護情報システムの実現と、業界全体の発展に貢献してまいります。

トレンサーテクノロジーソリューション (2026年5月15日入会)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-14 朝日神保町プラザ405号

TEL: 03-6910-0675

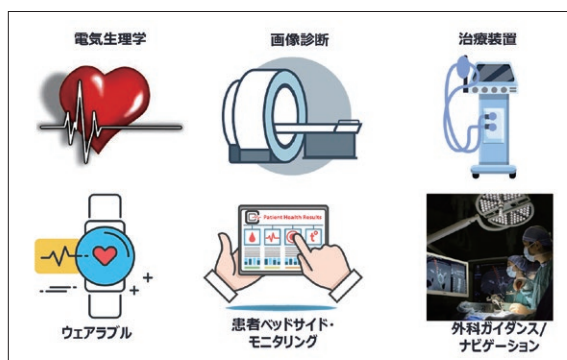
<https://www.trenser.com/jp/>

トレンサーテクノロジーソリューションは、インドに本社を置き、日本およびカナダで事業を展開し、世界中に分散したデリバリーセンターにより、エンドツーエンドのソフトウェア開発サービスを提供している企業です。750名以上の熟練したエンジニアからなるチームを擁し、グローバル事業の約40%を占める日本市場の文化と厳格な品質基準に深く適応しています。また、ISO認証(9001・27001・13485)に基づく厳格な品質・情報管理下で、安全な環境に限定した生成AIを活用し、機密保持を徹底しつつ開発サイクルを大幅に高速化しています。日本法令の完全遵守と日本人スタッフの雇用により、確かな説明責任と高品質なエンジニアリングサービスを実現しています。

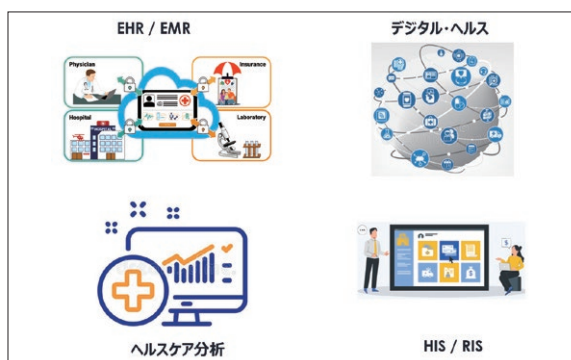
ヘルスケアおよび医療技術は、トレンサー社の最大の事業分野であり、全事業の45%を占めています。この重点化により、当社は深い専門知識を培い、専門的なエンジニアリング人材を確保し、急速に進化するヘルスケア分野の規制や技術動向に常に遅れを取らないようにしています。更にデスクトップ(臨床・画像診断)、クラウド(セキュアなSaaS)、モバイル(遠隔モニタリング)など、全主要プラットフォーム向けの開発を網羅しています。医療用ソフトウェア開発サービスは、次の4つの主要分野にまたがり、厳格な安全性、規制、相互運用性の要件を満たすソリューションを提供しています：



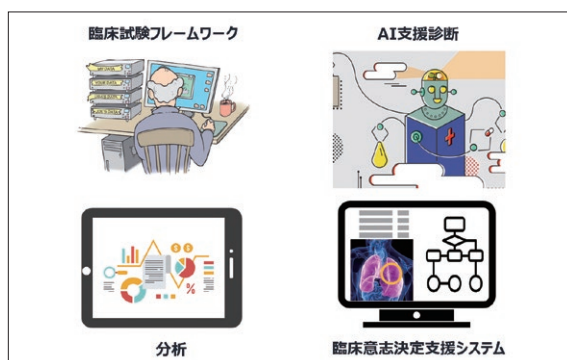
画像診断



医療機器用ソフトウェア



医療情報システム



臨床研究支援システム

トレンサーテクノロジーソリューションはJAHISコミュニティに貢献し、会員の皆様と協力し、日本の医療情報システムの品質、安全性、およびイノベーションの向上に寄与できることを希望しています。

株式会社ファティマ（2026年5月15日入会）

〒852-8022 長崎県長崎市富士見町11-28

TEL : 095-808-5253

<https://www.phatima.co.jp/>

株式会社ファティマという社名には、長崎の地で広く世界に通用するソフトを開発し世界に発信して行きたい、奇跡を起こしたいという思いが込められています。

2003年10月より「介護保険システムQuickけあ」をリリースし、医療分野を中心にシステムの開発や導入、サポートサービスを提供して参りました。

これからも、医療、福祉分野に特化したシステムの開発やサービスを提供する会社として、医療機関様や福祉事業者様はもちろんのこと、その先にいる利用者様のお役に立てるシステムの開発やサービスの提供を目指して参ります。

この度JAHISに入会させて頂き、医療・福祉業界の最新動向に関する学びを深め、JAHIS及び業界の発展に寄与できますよう、微力ではございますが努めて参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

中央コンピューターサービス株式会社 (2026年5月15日入会)

〒086-1152 北海道標津郡中標津町北町2-22

TEL: 0153-72-0115 / FAX: 0153-72-0199

<https://www.ccs1981.jp/><https://sys-po.co.jp/>

1981年7月、北海道中標津町。この大地から、中央コンピューターサービス株式会社（CCS）のチャレンジは始まりました。以来40年以上、本社を中標津町に置きながら、札幌・後志（倶知安）・十勝（帯広）・北見（オホーツク）・恵庭・東京へと拠点を拡大し、北海道を主軸に全国へICTサービスを届け続けています。

主力事業は、自治体向け総合行政システムです。1985年の「TAWN-90」（オフコン版）を起点に、長年にわたり開発・改良を重ねた自社パッケージ「Web-TAWN」を中核として、住民記録・税務・福祉などの基幹業務を一元化し、自治体の業務効率化と住民サービス向上を支援しています。導入後の運用サポートから制度改正対応まで、自治体と共に走り続ける「伴走型」のスタンスが私たちの強みです。

近年は、ふるさと納税BPOサービスにも注力しています。返礼品管理から寄附者対応、データ集計まで一括受託し、自治体の事務負担軽減と寄附拡大を両立する体制を整えています。また、教育委員会・学校向けのICT支援員派遣や校務支援システムの導入、民間企業向けのネットワーク構築・セキュリティ対策・データセンター運用・クラウド移行・無害化ソリューションなど、AIや仮想化技術の活用まで、幅広い領域で地域課題に向き合っています。

「地域の人々の暮らしをより豊かに快適に彩る」ことを使命に、課題発掘から企画立案・システム開発・導入・運用フォローまで一気通貫で、地域とお客様に寄り添い続けます。このたび貴会への参加という貴重な機会をいただき、大変光栄に存じます。会員の皆様とともに学び、連携を深めながら、地域ICTの発展に貢献できるよう全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶

事業企画推進室

副室長

みよはら ひでゆき
茗原 秀幸



2026年4月よりJAHIS事業企画推進室の副室長に就任いたしました茗原秀幸です。何卒よろしくお願いいたします。

私は1987年に新卒として三菱電機株式会社に入社し、コンピュータ営業、新事業企画、健康情報システム企画を経て、医療情報システム営業に従事し、1999年頃から電子カルテの営業を通じてJAHISと関わるようになりました。それ以降は医療システム部会のセキュリティ委員会を中心に国の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」などの各種ガイドラインの整備やセキュリティ関連のJAHIS標準類の策定、ISO/TC215やHL7Internationalへの参画を通じた国際標準化活動などを行って参りました。

三菱電機では電子カルテなどの医療情報システム営業から医療分野のセキュリティプラットフォームの事業企画、医療情報セキュリティのコンサルテーションなどを行いながら定年まで勤め上げ、嘱託として三菱電機グループで継続して働いておりましたが、縁あって事業企画推進室長に公募することとなり、採択されました。現在は見習いとして小林室長の下で引き継ぎを行っており、2026年9月1日より小林室長から受け継ぎ新室長に就任予定となっております。

これまでのJAHIS活動の中での印象深い出来事はISO/TC215WG4のエキスパートとして世界各国を訪問し、各国の文化に触れることができたことだと考えております。その中でも特に印象深かったのは、イタリアのパエスタムにて開催された会議です。近くに古代遺跡があり、ISO/TC215のイベントとして訪問することができました。また、会議の合間に日薬の皆様とご一緒にアマルフィを訪問できたことも大切な思い出です。現地のアリアニコ（葡萄品種です）のワインを楽しみ、多くの方と議論し、私の担当であるWG4でも日本に有利な成果を得ることができて、有意義な出張でした。（写真は各国のISOメンバーで訪問したパエスタムの遺跡です）



私の趣味や好物についてですが、趣味はインドア系で読書、ゲーム、アニメ鑑賞などいわゆるオタク系のラインナップとなっております。高校時代まではバドミントンに取り組んでおり審判資格も持っていますが、いまや見る影もありません。昔は大作RPGやSLGを睡眠を削って取り組んでいた時期もありましたが、最近はタイプ重視のスマホゲームをやる程度となっております。アニメもシーズンあたり1~2作品を鑑賞する程度で、その筋の猛者の皆様からみればたいしたことない程度です。

好物は飲食全般で、おいしい料理やお酒をリーズナブルに味わえるお店を探して、見つけたら通い詰めるという生活をしています。JAHISの仲間からは、とあるお店の常連であることから「日本酒好き」とみられていますが、ワインも焼酎もウイスキーもブランデーもジンもいけます。要は「おいしければ何でもよい」という感じです。

こんな私でございますが、JAHISの一員として可愛がっていただければ幸いです。皆様とJAHIS活動を通じておいしいお酒とお料理で親交を深め、楽しみながら語り合えることを願っております。何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

執筆者の皆様におかれましては、ご多忙の折ご寄稿いただきまして、誠にありがとうございました。お蔭様で会誌77号の発刊を行うことができました。

本原稿を執筆しております時には、世界中がサッカーワールドカップに熱狂し、今大会も数々のドラマが生まれ、私たちに感動と興奮を届けてくれました。試合結果だけを見れば勝者と敗者に分かります。今大会では、ベテラン選手の円熟したプレーと若手選手の躍動が印象的でした。技術や戦術の進化を感じる一方で、勝利への情熱やチームワークの大切さといったサッカーの本質は変わらないことを改めて実感しました。

これは、IT業界にも通ずるものがあります。2026年に入り、AI市場とIT市場の融合はさらに加速しています。生成AIの実用化が進み、企業の関心は「導入するか」から「いかに業務価値を生み出すか」へと移行しました。クラウド、データ基盤、セキュリティといった従来のIT投資も、今やAI活用を前提に再定義されつつあります。一方で、AIの急速な普及は、生産性向上への期待だけでなく、ガバナンスや人材育成、情報管理といった新たな課題も浮き彫りにしています。技術革新のスピードに目を奪われがちですが、最終的に競争力を左右するのは、AIを活用する組織文化と人材の力でしょう。

同様に、医療現場を取り巻く環境も大きく変化していますが、その変化を支えるのは、技術だけでなく、やはり業界全体が共通の方向性を持って協力する姿勢です。JAHISが培ってきた知見やネットワークは、医療機関、行政、企業をつなぐ架け橋として、安心・安全で質の高い医療サービスの実現に寄与してまいります。

今後もJAHISは、ヘルスケアIT業界の発展を牽引する存在として、新たな価値創造やイノベーションの促進に貢献していきたいと思っております。

最後になりましたが、本号の発刊にあたりご尽力いただきました執筆者の皆様ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも弊社活動の充実と発展に向けて、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記 T. O

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第77号

令和8年8月10日 発行

発行人：榎本 康之

編集委員会：編集人 寺崎 貴宏
委員 大橋 正
委員 前田 利勝
委員 佐々木 元
委員 井伊 長史
委員 福岡 衡治
委員 松谷 正俊
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <https://www.jahis.jp>

制作：株式会社イズアソシエイツ

